

2025 年度

事業報告書

学校法人ものづくり大学
ものづくり大学
ものづくり大学大学院

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神	5
2. 大学の基本理念	5
3. 大学院の設置理念	5
4. 沿革	6
5. 設置学校等	6
6. 職員数	7
7. 役員・評議員	8
8. 学生数の概要	10
(1) 入学者の推移	10
(2) 学部学生の諸属性	11
(3) 大学院生	11
(4) 科目等履修生及び研究生	11

II. 事業概要

II-1 目的	12
1. 大学の目的	12
(1) 情報メカトロニクス学科	12
(2) 建設学科	12
2. 大学院の目的	12
II-2 アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)	12
1. 大学	12
2. 大学院	14
II-3 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	15
1. 大学	15
(1) 情報メカトロニクス学科	15
(2) 建設学科	15
2. 大学院	16

Ⅱ－4 カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)	16
1. 大学	16
(1) 情報メカトロニクス学科	16
(2) 建設学科	17
2. 大学院	17
Ⅱ－5 主な事業の実施概要	19
1. 教育に関する事項	19
2. 入学試験および学生募集に関する事項	21
3. 学生生活指導に関する事項	22
4. 学生の就職対策に関する事項	23
5. 国際・地域交流事業および社会貢献に関する事項	23
6. 研究等の推進に関する事項	24
7. 情報システムの運用に関する事項	24
8. 施設、設備の管理等に関する事項	25
9. 組織運営に関する事項	25
10. 人事・労務に関する事項	25
Ⅱ－6 教育研究の概要	26
1. 職員概要	26
(1) 教育職員数	26
(2) 職員数	26
(3) 教学	27
(4) 事務局	29
(5) 学校法人ものづくり大学及びものづくり大学組織図	30
2. 学修の成果に係る評価及び卒業・修了認定基準	31
3. 学生納付金	32
4. 学生支援	32
(1) 奨学金制度	32
(2) 健康支援	33

5. 学習環境	33
(1) キャンパスの概要	33
(2) 校舎配置図	33
(3) 図書館・メディア情報センター	34
6. 就職支援と就職状況	35
(1) 就職支援	35
(2) 就職状況	35
7. 管理運営の概要	38
(1) 情報公開	38

Ⅲ. 財務の概要

1. 主要機器整備状況	39
2. 機器の寄附受入状況	43
3. 決算の概要	45

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神

わが国は、資源・エネルギーに乏しく、そのほとんどを海外に依存しているため、わが国の繁栄は、ひとえに輸出品等を生産するものづくりを基盤とした産業の発展にかかっている。そのためには、次代を担う若者が、情熱と理想を持ってものづくりに取り組める教育環境を整備拡大していく必要がある。また、わが国で誇れる最高の資源は「人」である。そこで、大学名は、「モノ」と「ヒト」の両方の意味を「もの」という言葉に込めて「ものづくり大学」と命名し、ものづくりの「技」と「知恵」と「心」を併せ持つ有為な人材の育成を目指しものづくり大学を設立した。

2. 大学の基本理念

- ① ものづくりに直結する実技・実務教育の重視
- ② 技能と科学、技術・芸術・経済・環境とを連結する教育・研究の重視
- ③ 時代と社会からの要請に適合する教育・研究の重視
- ④ 自発性・独創性・協調性をもった人間性豊かな教育の重視
- ⑤ ものづくり現場での統率力や起業力を養うマネジメント教育の重視
- ⑥ 技能・科学技術・社会経済のグローバル化に対応できる国際性の重視

3. 大学院の設置理念

- ① ものづくり学の創生と発展
- ② ものづくり学の探求と実践の同時推進
- ③ 実務との連携の重視
- ④ 学生の自己マネジメント力の重視
- ⑤ ものづくりの拠点機能の充実

4. 沿革

- 1999 年 2 月 17 日 「財団法人国際技能工芸大学設立準備財団」を文部省が認可(1999 年 9 月 30 日付で「財団法人ものづくり大学設立準備財団」に名称変更することを文部省が認可)
- 1999 年 12 月 2 日 大学本部棟・図書情報センター、製造棟、建設棟、大学会館工事着工
- 2000 年 5 月 27 日 ドーミトリ・合宿研修センター、体育館工事着工
- 2000 年 12 月 26 日 文部省が学校法人国際技能工芸機構設立とものづくり大学(技能工芸学部 製造技能工芸学科、建設技能工芸学科)設置を認可
- 2001 年 3 月 20 日 建物 竣工
- 2001 年 4 月 1 日 大学 開学
- 2003 年 3 月 7 日 中央棟 竣工
- 2004 年 11 月 30 日 文部科学省が大学院設置を認可
- 2005 年 4 月 1 日 大学院 開学
- 2010 年 4 月 1 日 学校法人名称を学校法人ものづくり大学に変更
- 2011 年 4 月 1 日 学科名称を製造学科、建設学科に変更
両学科定員を 180 名から 150 名に変更
- 2011 年 10 月 30 日 創立 10 周年記念式典実施
- 2018 年 4 月 1 日 製造学科の名称を総合機械学科に変更
- 2021 年 11 月 1 日 創立 20 周年記念式典実施
- 2022 年 4 月 1 日 総合機械学科の名称を情報メカトロニクス学科に変更

5. 設置学校等

- 【設置者】 学校法人ものづくり大学
- 【会 長】 正井 健太郎
- 【理事長】 土屋 喜久
- 【大 学】 ものづくり大学
- 【学 長】 國分 泰雄
- 【学 部】 技能工芸学部 情報メカトロニクス学科／建設学科
- 【大学院】 ものづくり学研究科
- 【所在地】 埼玉県行田市前谷 333 番地

6. 職員数(2026 年 3 月 31 日)

	技能工芸学部	
	情報メカトロニクス学科	建設学科
教育職員	20 名	19 名
教務職員	2 名	2 名

	事務局
一般職員	59 名

7. 役員・評議員(2026 年 3 月 31 日現在)

【役員】 理事 16 名 監事 2 名

職名	氏名	就任年月日	区分	職名
理事長	土屋 喜久	2024年04月01日	非常勤	学校法人ものづくり大学 理事長
理事	正井 健太郎	2025年06月19日	非常勤	株式会社日立製作所 エグゼクティブアドバイザー
理事	國分 泰雄	2022年04月01日	常勤	ものづくり大学 学長
理事	竹下 典行	2018年09月01日	常勤	学校法人ものづくり大学 専務理事
理事	赤松 明	2023年04月01日	非常勤	ものづくり大学 名誉学長
理事	井上 和幸	2025年06月19日	非常勤	清水建設株式会社 代表取締役会長
理事	大塚 友美	2023年05月30日	非常勤	トヨタ自動車株式会社 チーフ・サステナビリティ・オフィサー
理事	久米 正	2025年06月19日	非常勤	株式会社日立製作所 執行役常務 モノづくり・品質保証責任者
理事	行田 邦子	2023年05月30日	非常勤	行田市 市長
理事	高田 直芳	2025年06月19日	非常勤	学校法人佐藤栄学園 常務理事
理事	武石 恵美子	2025年06月19日	非常勤	法政大学キャリアデザイン学部 教授
理事	寺島 実郎	2009年07月01日	非常勤	多摩大学 学長
理事	橋元 健	2025年06月19日	非常勤	埼玉県経営者協会 会長
理事	福岡 聡	2025年06月19日	非常勤	埼玉りそな銀行 代表取締役社長
理事	堀光 敦史	2023年05月30日	非常勤	埼玉県副知事
理事	前田 操治	2025年06月19日	非常勤	前田建設工業株式会社 代表取締役社長
監事	佐々木 良二	2023年04月01日	非常勤	元株式会社日立システムズ 監査役
監事	村田 俊彦	2025年06月19日	非常勤	生活協同組合コープみらい 理事

本法人は、私立学校法に従い、2020 年 4 月 1 日より非業務執行理事及び監事との間に責任限定契約を締結している。契約内容の概要としては、非業務執行理事及び監事はその職務を行うに当たり、その任務を怠ったことによって学校法人に損害を与えた場合において、非業務執行理事においては金 2 万円・監事においては金 180 万円または私立学校法において準用する一般社団法人及び一般社団法人に関する法律に基づく最低限度額のいずれか高い額を損害賠償の責任限定額とするもの。ただし、役員の職務執行の適正性が損なわれないよう、当該役員がその職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときに限り契約が適用される旨の定めがある。

【評議員】30 名

氏名	就任年月日	職名
荒木 邦成	2021年 4 月 1日	ものづくり大学 ものづくり研究情報センター長
伊藤 嘉男	2013年 4 月 1日	ものづくり大学同窓会 理事(建設技能工芸学科1期生)
井上 晋	2025年06月19日	大阪工業大学 学長
今井 弘	2025年06月19日	ものづくり大学 建設学科長
岩船 昭博	2025年06月19日	株式会社日立製作所 人材統括本部CHRO室長
大石 克紀	2023年04月01日	埼玉経済同友会 専務理事
大河原 久治	2024年05月23日	株式会社日立製作所 人事勤労本部タレントアクイジション部長
柏原 大輝	2026年03月26日	トヨタ自動車株式会社 人材開発部 採用・計画室長
掛川 秀史	2023年04月01日	清水建設株式会社 常務執行役員 技術研究所長
小林 洋司	2024年10月04日	中央職業能力開発協会 理事長
佐久田 茂	2025年06月19日	ものづくり大学 技能工芸学部長
澤本 武博	2025年06月19日	ものづくり大学 教養教育センター長
神保 政史	2025年12月19日	日本労働組合総連合会 事務局長
須崎 徹	2023年04月01日	川口鋳物工業協同組合 理事
鈴木 真央	2025年03月28日	株式会社日刊工業新聞社 編集局編集局長
清家 一志	2025年06月19日	前田建設工業株式会社 常務執行役員 建築事業本部副本部長
関根 正昌	2023年04月01日	株式会社埼玉新聞社 代表取締役社長
染谷 明生	2023年05月30日	埼玉県工業高等学校長会 会長
高本 治明	2025年06月19日	一般社団法人日本ロボットシステムインテグレータ協会 専務理事
竹中 信輝	2021年04月01日	ものづくり大学同窓会 理事(製造学科8期生)
田尻 要	2025年12月19日	ものづくり大学 教務長
立川 修子	2017年05月31日	一般社団法人埼玉県技能士会連合会 会長
長谷川 眞一	2015年04月01日	前学校法人ものづくり大学 理事長
服部 信治	2017年04月01日	株式会社アーバネットコーポレーション 代表取締役会長兼CEO
廣田 亮治	2021年12月03日	パナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社 モノづくり研修所長
藤原 清明	2022年05月31日	一般社団法人日本経済団体連合会 専務理事
細井 保雄	2021年05月26日	行田商工会議所 会頭
松本 宏行	2025年06月19日	ものづくり大学 情報メカトロニクス学科長
水上 真紀	2025年06月19日	埼玉中小企業家同友会
渡邊 隆	2025年06月19日	全国工業高等学校長協会 参与

8. 学生数の概要

(1) 入学者(学部)の推移(過去5年間)

①2021年度

学科	入試区分	定員	志願者	受験者数	合格者	入学者	在籍者
総合機械学科	推薦	65	56(0)	56(0)	56(0)	53(0)	
	一般	75	237(27)	209(21)	140(13)	55(3)	
	その他	10	32(0)	31(0)	26(0)	22(0)	
	小計	150	325(27)	296(21)	222(13)	130(3)	13(3)
建設学科	推薦	65	115(7)	115(7)	112(7)	96(2)	
	一般	75	358(70)	301(61)	148(34)	79(17)	
	その他	10	29(7)	27(7)	23(7)	19(6)	
	小計	150	502(84)	443(75)	283(48)	194(25)	12(24)
合計		300	827(111)	739(96)	505(61)	324(28)	25(27)

①2022年度

学科	入試区分	定員	志願者	受験者数	合格者	入学者	在籍者
情報メカトロニクス学科	推薦	65	56(1)	55(1)	55(1)	51(0)	
	一般	75	327(35)	298(31)	218(27)	60(1)	
	その他	10	23(0)	23(0)	21(0)	17(0)	
	小計	150	406(36)	376(32)	294(28)	128(1)	102(1)
建設学科	推薦	65	91(8)	91(8)	91(8)	79(3)	
	一般	75	398(106)	374(99)	241(69)	83(27)	
	その他	10	19(4)	18(3)	14(2)	8(1)	
	小計	150	508(118)	483(110)	346(79)	170(31)	151(27)
合計		300	914(154)	859(142)	640(107)	298(32)	253(28)

①2023年度

学科	入試区分	定員	志願者	受験者数	合格者	入学者	在籍者
情報メカトロニクス学科	推薦	65	49(2)	49(2)	48(2)	43(1)	
	一般	75	337(33)	327(33)	254(28)	42(2)	
	その他	10	8(1)	8(1)	7(1)	6(1)	
	小計	150	394(36)	384(36)	309(31)	91(4)	80(2)
建設学科	推薦	65	67(7)	67(7)	66(7)	47(1)	
	一般	75	388(67)	375(63)	277(45)	78(18)	
	その他	10	17(3)	14(2)	13(2)	5(0)	
	小計	150	472(77)	456(72)	356(54)	130(19)	115(17)
合計		300	866(113)	840(108)	665(85)	221(23)	195(19)

①2024年度

学科	入試区分	定員	志願者	受験者数	合格者	入学者	在籍者
情報メカトロニクス学科	推薦	65	42(1)	42(1)	41(1)	34(0)	
	一般	75	269(38)	261(36)	203(29)	46(5)	
	その他	10	20(2)	19(2)	19(2)	13(1)	
	小計	150	331(41)	322(39)	263(32)	93(6)	90(5)
建設学科	推薦	65	74(17)	74(17)	74(17)	59(11)	
	一般	75	306(75)	298(72)	214(46)	52(10)	
	その他	10	13(3)	11(3)	11(3)	8(1)	
	小計	150	393(95)	383(92)	299(66)	119(22)	110(21)
合計		300	724(136)	705(101)	562(98)	212(28)	200(26)

①2025年度

学科	入試区分	定員	志願者	受験者数	合格者	入学者	在籍者
情報メカトロニクス学科	推薦	65	43(1)	43(1)	43(1)	40(0)	
	一般	75	176(10)	169(10)	125(10)	32(2)	
	その他	10	33(3)	31(3)	31(3)	26(3)	
	小計	150	252(14)	243(14)	199(14)	98(5)	98(5)
建設学科	推薦	65	52(6)	52(6)	52(6)	49(6)	
	一般	75	233(39)	226(36)	169(25)	64(11)	
	その他	10	31(10)	31(10)	29(10)	23(8)	
	小計	150	316(55)	309(52)	250(41)	136(25)	136(25)
合計		300	568(69)	552(66)	449(55)	234(30)	234(30)

※1 上記中、「在籍者」は、2025年5月1日現在実績。在籍者には、復学・編入・秋入学・再入学・転学科を含む。

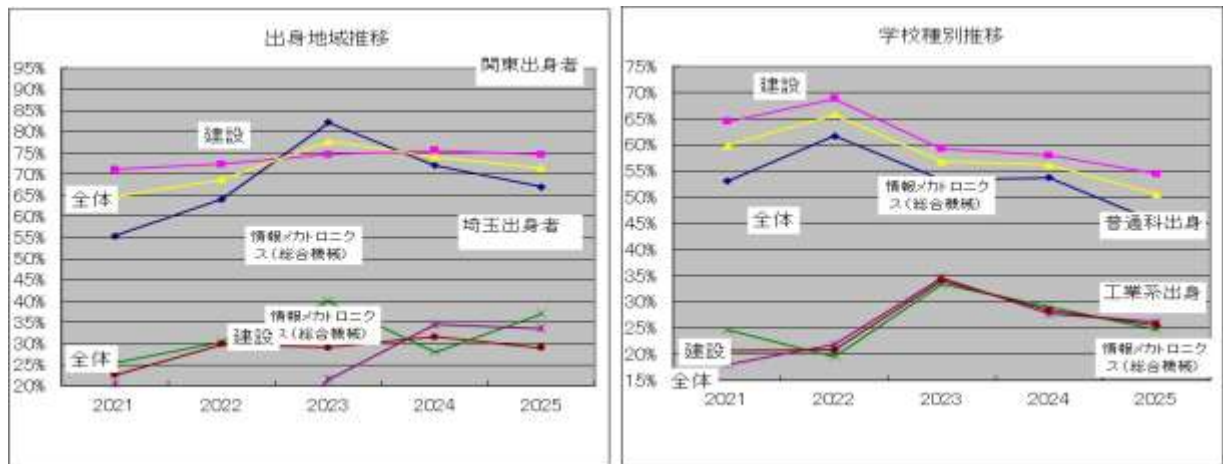
※2 【 】内には、当該年度収容定員数を示す。

※3 ()内には、女子学生を示す。

※4 2025年5月1日現在の大学学部在籍人数は920名。(含.2018～2021年度入学生30名)

(2) 学部学生の諸属性(過去 5 年間)
入学時(当該年度 5 月 1 日現在)の属性

	属性	情報メカトロニクス(総合機械)学科					建設学科					合計				
	入学年度	2021	2022	2023	2024	2025	2021	2022	2023	2024	2025	2021	2022	2023	2024	2025
地域	北海道・東北	5	2	6	6	3	4	8	4	9	7	9	10	10	15	10
	関東・甲信越	72	82	74	67	65	138	123	97	90	100	210	205	171	157	165
	(内埼玉県)	(33)	(39)	(36)	(26)	(36)	(40)	(50)	(28)	(41)	(45)	(73)	(89)	(64)	(67)	(67)
	中部・北陸	1	2	1	0	1	4	8	5	3	4	5	10	6	3	5
	近畿	1	1	1	2	0	0	0	4	3	0	1	1	5	5	0
	中国・四国	1	0	1	2	1	2	7	2	3	0	3	7	3	5	1
	九州・沖縄	0	2	1	2	2	4	3	2	1	2	4	5	3	3	4
	外国	19	20	4	14	25	15	4	5	7	21	34	24	9	21	46
学校別	普通	69	79	48	50	44	125	117	77	69	73	194	196	125	119	117
	工業 (商業・農業含む)	32	25	30	27	24	35	37	45	33	35	67	62	75	60	59
	その他	29	24	12	16	29	34	16	8	17	26	63	40	20	33	55
計		130	128	90	93	97	194	170	130	119	134	324	298	220	212	231



(3) 大学院生

入学年度	定員	志願者	合格者	入学者	在籍者
2021 年度	20	17	16	14	0
2022 年度	20	12	11	11	0
2023 年度	20	14	13	13	3
2024 年度	20	19	19	19	18
2025 年度	20	14	14	13	13

※ 2025 年 5 月 1 日現在の大学院在籍人数は 34 名。

(うち 3 名はそれぞれ 2023 年度 3Q 入学、2024 年度 3Q 入学 2024 年度 4Q 入学)

(4) 科目等履修生及び研究生

科目履修生:8 名(本学の学生以外の者で、授業の履修を志願する者へ単位授与)

研究生:1 名(本学卒業生またはそれと同等の学力があると認めた者)

Ⅱ. 事業概要

Ⅱ-1 目的

1. 大学の目的

基本理念に基づき、「ものづくり大学は、高度な技能と技術の融合した実践的な技能工芸に関する教育及び研究を行い、加えて豊かな社会性・創造性・倫理性を身につけた技能技術者を育成することを目的とし、あわせてものづくりに対する社会的評価の向上と世界の発展に貢献することを使命(ものづくり大学学則第1条)」とする。

(1) 情報メカトロニクス学科

工業製品等の製造に関わる工学知識に基づき、技術と技能を深く探求し発展させるとともに、その成果を広い視野から応用することで、産業のみならず文化・社会および環境に貢献する。また、これらを実務において実行することのできる素養と、ものづくりの発展を担うものとしての社会性・創造性・倫理性を伴う実践力を有する人材の育成を目的としている。

(2) 建設学科

建設技能技術者として建設現場をとりまとめ、安全かつ的確にものを創り出す知識と判断力を持つ人材、先人の優れた業績を越えながら新しい技能や技術でものをづくり出す創造力豊かな人材、そしてものづくりの組織を起し、広い視野で社会的な活動を行う先見性と経営力を備えた人材の育成を目指す。

2. 大学院の目的

大学院の設置理念に基づき、「ものづくり大学大学院は、文化・社会・経済・環境すべてにわたって真に価値あるもの及びものづくりの在り方を探求し、これを実践するとともに、そのための独創的かつ自発的な人材を育成し、ものづくりを通して社会に貢献すること、「ものづくり学」の拠点としての機能を充実させ、広く人類全般に貢献することを目的(ものづくり大学大学院学則第1条)」とする。

Ⅱ-2 アドミッション・ポリシー(入学受入れ方針)

1. 大学

ものづくり大学は、大学の基本理念に則り、高度なものづくりに対応できる専門的知識および技能技術を併せ持った「テクノロジスト」を育成します。

科学技術創造立国を支えるテクノロジストを目指して、専門的知識および技能技術の習得に真摯に向き合うとともに、ものづくりへの情熱と誇りを持ち、自身の資質や多様な能力を向上させようとする強い意欲を持つ者の入学を期待しています。

(1) 求める学生像

- ① 本学で学ぶ強い意思を持ち、積極的にものづくりに取り組める者
- ② 仲間と協力し、チームで課題に取り組める者
- ③ 知識や技能技術の習得に真摯に向き合い、自ら考え自身の能力向上に努められる者
- ④ グローバル化する社会や科学技術に関心を持ち、異文化など多様性の受容に努められる者
- ⑤ 価値観の異なる相手ともコミュニケーションを図り、互いの理解を深めながら学ぶ意欲のある者

(2) 入学までに身につけておくべき能力

- ① 基礎学力として高等学校等で様々な教科を幅広く学習していること
- ② 専門的知識および技能技術を学ぶ上で、理数系科目の基礎知識を身につけていること

③ものづくり現場で必要となるコミュニケーション能力の向上のため、表現力の基礎となる国語の素養を身につけていること

④グローバル化する社会や科学技術を理解するため、英語の素養を身につけていること(3) 選抜方法および評価方法

ものづくり大学では、高等学校等で習得した基礎知識(数学、英語、国語、理科)、「学力の3要素」(※)、ものづくり分野での実績やものづくりへの熱意等を多角的に評価するため、多様な入試制度を用意しています。

大学入学共通テスト、個別学力検査、志願理由書や調査書などの出願書類、面接・口頭試問、小論文などを組み合わせて能力や資質を総合的に評価します。志願理由書や調査書等の出願書類では、思考力、表現力や主体性などを評価します。

以上の選抜方法で能力や資質を各入試により異なる比重で評価します。評価項目については、各試験に反映されています。

〔※「学力の3要素」とは、(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を
持って多様な人と協働して学ぶ態度〕

(4) 入試制度

①学校推薦型選抜

学校長の推薦を踏まえ、面接・口頭試問及び出願書類に基づき、学力の3要素とものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。

【評価方法】

- ・指定校推薦入試:面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)、推薦書参考
- ・推薦スカラシップ入試(指定校制):面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)、推薦書参考
- ・推薦入試(公募制):面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)、推薦書参考

②総合型選抜

各入学試験の趣旨に鑑み、入学志願者の能力・適性、学習に対する意欲、目的意識、ものづくりへの熱意や実績等を総合的に評価します。

【評価方法】

- ・高大接続入試:面接・口頭試問(50点)、レポート(20点)、出願書類(10点)、課題(適性審査)
*面接・口頭試問、レポート、出願書類及び課題に基づき、学力の3要素とものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。
- ・自己推薦入試:面接・口頭試問(50点)、出願書類(20点)
*面接・口頭試問及び出願書類に基づき、学力の3要素とものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。
- ・ものづくり特待生入試:ものづくりの実績、面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)
*ものづくりの実績、面接・口頭試問及び出願書類に基づき、学力の3要素とものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。
- ・女子スカラシップ入試:面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)
*産業界から理系女子が求められている社会背景から、本学では、内閣府男女共同参画局が推進する「理工チャレンジ」に賛同し女子生徒の進学を支援します。面接・口頭試問及び出願書類に基づき、学力の3要素とものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。
- ・スカラシップ特待生入試:課外活動の実績等、面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)
*課外活動等の実績、面接・口頭試問及び出願書類に基づき、学力の3要素とものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。

③一般選抜

本学独自の学力試験の成績と出願書類に基づき、技能工芸学部で学ぶための基礎学力と学力の3要素を総合的に評価します。

【評価方法】

- ・学力特待生入試:個別学力検査(国語、数学、英語)(300点)、出願書類(5点)
- ・数学特待生入試:個別学力検査(数学)(100点)、面接・口頭試問(25点)、出願書類(5点)
- ・一般入試A日程、B日程【A方式:2教科選択型】:
個別学力検査(国語、数学、英語から2教科)(200点)、出願書類(5点)
- ・一般入試B日程【B方式:英検・GTEC利用型】:
個別学力検査(数学)(100点)、英語外部試験(100点換算)、出願書類(5点)
- ・一般入試C日程:
個別学力検査(数学)(100点)、面接・口頭試問(25点)、出願書類(5点)
- ・一般選抜(小論文面接入試):
個別学力検査(小論文)(20点)、面接・口頭試問(50点)、出願書類(10点)

④特別選抜

【評価方法】

- ・社会人入試:面接試験(40点)
*社会人としての実績を踏まえ、面接及び出願書類に基づき、ものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。
- ・帰国子女入試:面接試験(40点)
*海外での経験や身に付けた知識・能力を踏まえ、面接及び出願書類に基づき、ものづくりへの熱意やテクノロジストとしての資質を総合的に評価します。
- ・外国人留学生入試:面接試験(40点)
*母国で身に付けた知識や能力を踏まえ、面接及び出願書類に基づき、ものづくりへの熱意や国際性を総合的に評価します。

2. 大学院

ものづくり学研究科では、独創的かつ自発的に高度なものづくりを実践し、社会に貢献するマスター・テクノロジストを育成します。マスター・テクノロジストを目指して、高度な専門的知識および技能技術を探究するとともに、複合的で幅広い視点を備え、高度なものづくりを通して世界で活躍する強い意欲を持つ者の入学を期待しています。

(1) 求める学生像

- ①本研究科で学ぶ強い意思を持ち、高度なものづくりに積極的に取り組める者
- ②自ら課題を設定し分析評価する姿勢を持ち、実験・研究等に真摯に取り組める者
- ③仲間と協力し、学術的論理を持って創意工夫や問題解決に努められる者
- ④最新の科学技術や社会経済に関心を持ち、グローバルな視点で多様性の受容に努められる者
- ⑤価値観の異なる相手とも互いの理解を深めながら学び、最善の帰結に努められる者

(2) 入学までに身につけておくべき能力

- ①積極的に実験・研究等に取り組む強い意欲や、探究心を持って高次のものづくりを学ぶ自主性を身につけていること(意欲、探究心、自主性)
- ②高い知的好奇心を持ち、理数系の基礎的理論や統計処理に関する科学的基礎知識およびコンピュータリテラシーを身につけていること(知的好奇心、科学的基礎知識、コンピュータリテラシー)

- ③マスター・テクノロジストの素養として必要な一定の教養や倫理観に加え、論理的に考察する能力を身につけていること(教養、倫理観、論理性)
- ④国際社会や多文化を受容し、互いに理解して協調・協力するために必要な語学的素養やプレゼンテーション能力を身につけていること(文化受容性、語学的素養、プレゼンテーション能力)

Ⅱ-3 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

1. 大学

(1) 技能工芸学部

本学は建学の基本理念に則り、ものづくりに対する社会的評価の向上と世界に貢献することを使命とし、高度なものづくりに対応できる基礎学力と専門的知識および高度な技能技術を持ち合わせたテクノロジストを育成し社会に輩出することを目的にしている。

特に、本学を卒業するテクノロジストには、ものづくりへの誇りと真摯さを身につけ、自らに一流の仕事を要求し、常に基準を高く定め、ものづくりにアプローチすることが期待されている。

そのためにテクノロジストとして必要な基礎学力、専門的知識、技術技能に合わせ、以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位(技能工芸学)を授与する。

- ①ものづくりを実践することから得られる創意工夫する力(現場力)
- ②課題を見出しチームで協力したり、リーダーとなって解決する力(課題設定・解決力、マネジメント力)
- ③困難に向き合い乗り越える力(耐力、胆力)
- ④異文化など多様性を受容、尊重でき、科学技術、社会経済のグローバル化に対応できる力(協調力)
- ⑤価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合える力(コミュニケーション力)

(2) 情報メカトロニクス学科

高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、情報メカトロニクス学科が定めた以下の能力を身につけ、卒業要件として定める専門的な学修を体得し、その基準を満たした者に学位を授与する。

- ①製造関連分野(機械デザイン、ロボットシステム、AI・情報システム、生産システム)に関わる基礎的学力、専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。
- ②学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。
- ③多様化する製造関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。
- ④実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。

(3) 建設学科

高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、建設学科が定めた以下の能力を身につけ、卒業要件として定める専門的な学修を体得し、その基準を満たした者に学位を授与する。

- ①建設関連分野(木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン)に関わる基礎的学力専門的知識、技術技能の他、実践的な場面で創意工夫ができる現場力を有すること。
- ②学修課程のなかでチームが一丸となる協調性を持ち、また、リーダーとしての課題設定と解決のためのマネジメント力、困難を乗り越えられる耐力と胆力を有すること。

- ③多様化する建設関連業界の一員となるため、異文化などの受容と尊重が行え、更に進化する科学技術や社会経済のグローバル化にも対応できる能力を有すること。
- ④実社会が要求する専門的知識と技術技能に加え、社会性や倫理性を持って価値観の違う相手との双方向コミュニケーションが図れる能力を有すること。

2. 大学院

日本のものづくりは、古代から受け継がれてきた伝統技能に近代以降の科学技術が加わり、科学と技能・技術の融合で創出される、芸術的で洗練された形態が確立されつつある。また、このための新たな取組みでは採算を度外視し、納得がいくまでと言う職人氣質が、より多くの良質な作品を世に生み出し、世界的にも日本のものづくり産業が高く評価される結果を導いてきた。

本学は先人が築いた礎と建学の基本理念に則り、ものづくりに対する社会的評価の向上と世界に貢献することを使命とし、高度なものづくりに対応できる自発的な人材育成と共に、「ものづくり学」の学問領域を一層確かなものとすることを教育目標に掲げている。

これにより、本学大学院を修了するマスター・テクノロジストにおいては、実務に精通した実践的且つ、学際的な素養と高度なものづくりへの誇りと真摯さを身につけ、自らが掲げる最上位の目標が現代社会の希求する事案解決にも寄与するなど、独創的なものづくりへのアプローチが期待されている。

そのためにも、マスター・テクノロジストとして必要となる高度な専門的知識、技術技能に合わせて以下の能力を身につけ、修了要件を満たした者に修士の学位(ものづくり学)を授与する。

- ①高度なものづくりを実践する創意工夫力に加え、先端技術となる IoT など駆使して、総合的な対応と判断ができる力(現場力、知識力)
- ②多様化する課題の相関関係を正しく理解し、実験・研究などを通して複合的視点からそれら进行分析評価し、判り易く説明できる力(課題設定力・解決力、理解力)
- ③リーダーとしてチームを取りまとめ、どのような困難にも向き合って学術的論理を持ってそれを解決できる力(マネジメント力、耐力、知力)
- ④異文化など多様性を受容、尊重でき、更に最新の科学技術や社会経済の動向も逸早く理解して、グローバルな視点で対応できる力(協調力、知識力、受容力)
- ⑤価値観の異なる相手とも双方向で真摯に議論し、それを一定の結論に導くことができる力(コミュニケーション力)

II-4 カリキュラム・ポリシー(教育課程の内容・方法の方針)

1. 大学

(1) 技能工学学部

ものづくりに直結する実技・実務教育を重視するとともに、高度の専門能力と創造性ならびに豊かな教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成するカリキュラム編成とする。

(2) 情報メカトロニクス学科

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、情報メカトロニクス学科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ①入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制(quarter 制度)の下で1 年1 学期から2 年2 学期までを「基礎課程」、2 年3 学期から3 年4 学期までを「応用課程」、そして4 年1 学期から4 年4 学期までを「専門研究課程」として、段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ②基礎課程では、製造関連分野(AI・情報システム、ロボットシステム、機械デザイン、生産システム)に関わる基礎的な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学び、それを踏まえて基礎課程を総括する長期の基礎インターンシップで実務を体験し、学修者が目標とする将来像を明らかとする。

- ③応用課程では、学修者が到達目標に掲げる将来像をより確かなものとするため、4 コースの中から主専攻を定めてより高度な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学ぶものとするが、その他のコース科目についても履修することは可能で、創意工夫が行える総合的な実践力を身に付ける。
- ④専門研究課程では、所属する研究室教員の指導を受け、情報メカトロニクス学科教育課程の集大成として、卒業研究という課題設定に対して主体性と協調性を持ち、1 年間を通して実施した専門的研究成果を明らかとし、即戦力として社会に貢献できる技術・技能を確立させる。
- ⑤上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、テクノロジスト育成に必要不可欠な教養科目を配当する。基礎課程は初年次教育として、メディアリテラシーやデータサイエンスまた外国語も含め、アカデミックスキルを中心として学ぶ。応用課程では、本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解すべく人文・社会科学さらに自然科学を学び、加えて、卒業後を見据え社会人としての社会性・倫理性を身に付ける。

(3) 建設学科

本学の「基本理念」と「ディプロマ・ポリシー」に掲げる、高度なものづくりに対応できるテクノロジストを育成するため、建設学科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ①入学から卒業までの教育課程を三段階に分け、4 学期制(quarter 制度)の下で1年1学期から 2 年 2 学期までを「基礎課程」、2 年 3 学期から 3 年 4 学期までを「応用課程」、そして 4 年 1 学期から 4 年 4 学期までを「専門研究課程」として、段階的に高度な実践力が身に付く科目配当とする。
- ②基礎課程では、建設関連分野(木造建築、都市・建築、仕上・インテリア、建築デザイン)に関わる基礎的な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学び、それを踏まえて基礎課程を総括する長期の基礎インターンシップで実務を体験し、学修者が目標とする将来像を明らかとする。
- ③応用課程では、学修者が到達目標に掲げる将来像をより確かなものとするため、4 コースの中から主専攻を定めてより高度な専門知識を、講義と実験・実習を通して幅広く学ぶものとするが、その他のコース科目についても履修することは可能で、創意工夫が行える総合的な実践力を身に付ける。
- ④専門研究課程では、所属する研究室教員の指導を受け、建設学科教育課程の集大成として、卒業研究という課題設定に対して主体性と協調性を持ち、1 年間を通して実施した専門的研究成果を明らかとし、即戦力として社会に貢献できる技術・技能を確立させる。
- ⑤上掲の基礎課程から専門研究課程の段階を通じ、テクノロジスト育成に必要不可欠な教養科目を配当する。基礎課程は初年次教育として、メディアリテラシーやデータサイエンスまた外国語も含め、アカデミックスキルを中心として学ぶ。応用課程では、本学設立に寄与した梅原猛とピーター・ドラッカーの思想的営為を理解すべく人文・社会科学さらに自然科学を学び、加えて、卒業後を見据え社会人としての社会性・倫理性を身に付ける。

2. 大学院

本学の基本理念とディプロマ・ポリシーに掲げる高度且つ、複合的で幅広い視点を備えたものづくりに対応できるマスター・テクノロジストを育成するため、大学院ものづくり学研究科では以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- ①大学院ものづくり学研究科では、「情報メカトロニクス学系」または「建設学系」の何れかを指導教員と事前相談のうえ決定し、それぞれに配当される「専門講義系科目群」と「専門実習・演習系科目群」並びに両系共通となる「共通講義系科目群」の中から科目選択を行い、必要要件として定められた基準以上の単位修得をする。

- ②大学院ものづくり学研究科の教育課程は二段階で構成され、4 学期(クォータ)制度の下で 1 年 1 学期から 1 年 4 学期までを「マスター専門教育課程」、2 年 1 学期から 2 年 4 学期までを「マスター専門研究課程」として、それぞれが入学時に掲げた研究目標の到達を図るための教育プログラムで構成する。
- ③上掲の段階的な教育プログラムを通じ、マスター・テクノロジストとして複合的視点から「ものづくり学」の知識や概念をそれぞれ体系立てて整理する必要があるため、IoT などに関する知識を備え、更にデジタルファブリケーションも駆使し、それを判り易く表現するなど、多様なプレゼンテーション技術も併せて身につける。
- ④大学院ものづくり学研究科の集大成として纏める「修士学位プロジェクト研究」は、実験・調査研究、作品制作などによって得た新規性や有用性のほか、その独創性から得られる新たな知見の開拓が、本学が牽引する「ものづくり学」の学問領域確立にも寄与する。従って、その研究成果は実社会にも貢献を果たし、また、更なる高次研究への発展性を秘めることも条件にするが、それを学内外で公表し、一定以上の評価を得ることが合否判定の最終基準として定められる。

Ⅱ-5 主な事業の実施概要

2025 年度事業報告

1. 教育に関する事項

(1) 教育の質の向上に向けた取組み

①コース再編に向けたカリキュラムの見直し

②「主専攻副専攻」制の見直し

③ポータルシステム(学生と教職員の相互ツール)による情報共有

④三大学連携による単位互換を実施し、学生の履修状況を確認

⑤学生の意見を教育改善へ取り入れる取り組みの実施(意見交換会、アンケート)

(2) FD(Faculty Development)の推進

①第2クォータを対象に全授業でのアンケートを実施

②専任教員1人あたり2科目(講義系1科目、実習系1科目)を経年アンケートとして実施

③全授業を対象に教員1人あたり年間2回以上の授業見学を実施し、感想や意見を共有

④FD研修会の実施

(入学前課題分析報告、研修報告、新カリキュラムにおける要件、AIの使い方、授業改善)

(3) 休退学者低減に向けた取組み

①進級要件の見直し

②IR データ分析の実施

③HRの在り方および効果的な履修相談・履修指導を検討

④学生情報の共有など教務課、学生課、ふれあいルームの連携強化

(4) 教養教育センターの運営

①数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価と修了者へのオープンバッジ発行

②入学前課題を実施し、入学生の傾向を分析の上、学生指導に活用

③初年次教育として、大学での学習方法を学ぶ「ものづくり・ひとつくり総合講義A」を実施

④留学生の総合的な日本語能力を養成するため、「留学生日本語Ⅰ、Ⅱ」を実施

⑤鴻巣市吹上図書館との連携による「この地に眠る物語『埼玉学』から考える歴史と未来」を開催(2025年12月6日)

(5) 情報メカトロニクス学科の運営

①1年生

・ものづくりの基礎力強化に重点を置いた全学生共通のカリキュラムを実施

・フレッシュマンゼミで「ダンボールカート競技会」を実施(2025年8月1日)

・機械加工関係実習科目ローテーション: NCプログラム、手仕上げ加工、旋盤加工またはフライス加工、溶接または板金

②2年生

・第1クォータに全学生共通のカリキュラムを実施

・インターンシップ終了後、コース別専門分野の技能・技術および知識を修得できる授業実施

・CADを3次元教育に範囲拡大

・設計製図関係の材料強度等の設計的要素を強化

・電気制御系で、デバイスを組み入れた電子回路を学ぶ

・プロジェクト実習で、高所からの落下の衝撃に耐えられる機体をチームで設計し、3Dプリンターを用いて造形。協力しながら新しいアイデアを形にする取り組み実施

③3年生

- ・コース別専門分野の技術・技能および知識の習得
- ・他コースの科目履修による製造に関する知見の深化
- ・「世の中に無いものを創る創造プロジェクト」で、チームによる新しい発想のものづくりに挑戦

④4年生

- ・「卒業研究および制作」発表会実施(2026年1月27日～28日)

(6) 建設学科の運営

①1年生

- ・建設分野の基礎を幅広く学べる全学生共通のカリキュラムを実施
- ・建設の各構造(RC造、鉄骨造、木造等)の実習により専門性を深めるための基礎力を養成(技術の理解から小規模な建物の完成までの流れを一貫して体験)
- ・Fゼミで、チームごとに各施設の役割を理解する学内施設スタンプラリーやぎょうだ蔵めぐり実施

②2年生

- ・第1クォータに全学生共通のカリキュラムを実施
- ・インターンシップ終了後、コース別専門分野の技能技術および知識を修得できる授業実施

③3年生

- ・建設全般の基本的な技術・技能に加え、コース別の専門性の高い知識を習得
- ・家具、東屋等の制作実習や実物大のコンクリート梁の加重実験等特色ある授業を実施

④4年生

- ・「卒業研究および制作」発表会実施(2026年1月27日～29日)

(7) 大学院の運営

①材料、技術および社会環境関連等の知識と実践力を養う授業を実施

②ものづくりプロジェクト実習(1年次～2年次2クォータ)で、プロジェクトマネジメント法を修得

③ものづくり課題研究で自らの修士論文テーマに係る課題を研究

④修士学位プロジェクト中間発表会実施(2025年10月24日)

⑤修士学位プロジェクト成果発表会実施(2026年2月13日)

(8) インターンシップ

①インターンシップ成果の向上のため、インターンシップの事前教育充実

②現場業務を通じた業種や職種理解のため、第2クォータ(一部第1、3クォータ含む)に40日間の基礎インターンシップを実施

(情報メカトロニクス学科2年生75名、建設学科2年生101名)

③40日間または80日間の専門インターンシップを実施(建設学科4年生3名)

④成果発表会(56社が参加)を実施し、学内外へ成果を公開

⑤受け入れ先の開拓・拡充

(9) 学生の課外活動

①情報メカトロニクス学科

団体名	イベント等	活動結果等
宇宙開発研究プロジェクト	種子島ロケットコンテスト2026年大会	ロケット部門「ペイロード有翼滞空」 優勝・準優勝・ベストプレゼン賞
NHK学生ロボコンプロジェクト	ロボットコンテストF3RC	デザイン賞
	NHK学生ロボコン2025	出場
学生フォーミュラプロジェクト	学生フォーミュラ日本大会2025	EV部門出場
ものづくりデザイナーズプロジェクト	デザインフェスタvol.62	作品出展
	第3回百花繚乱～いんどり春フェスタ・夜フェスタ～	作品出展
ものづくりカンパニープロジェクト	碧蓮祭／web	作品の展示販売
		林業体験、製材ワークショップ実施

②建設学科

イベント等	活動結果等
第63回技能五輪全国大会	タイル張り職種：金賞（厚生労働大臣賞） 1名 家具、左官、造園職種：敢闘賞 5名
第20回若年者ものづくり競技大会	建築大工職種：金賞（厚生労働大臣賞） 1名
第48回技能五輪国際大会日本代表選手選考会	コンクリート躯体工事職種： 2026年度技能五輪国際大会（中国・上海）出場権獲得 2名
第16回Japan Steel Bridge Competition 2025	総合部門 3位
土木学会	「かけはし賞」 「第16回FRP複合構造シンポジウム」 優秀講演者賞 「第16回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム」優秀講演者賞 「第79回年次学術講演会」優秀講演者賞
日本鋼構造協会	「鋼構造シンポジウム2024」優秀講演者賞
第26回卒業設計コンクール展	JIA埼玉最優秀賞 1名 JIA埼玉優秀賞 2名 日建学院賞 1名

(10) 高大連携事業の強化

・教育連携協定の拡充(34 校)

- ・高校関係者への認知度向上のため、探究授業企画・出張講義の実施および学祭に協力
- ・教育連携協定高校等意見交換会を開催(21 校の高校等教員参加)

2. 入学試験及び学生募集に関する事項

(1) 入学試験の実施

- ①入試紹介動画を作成し、HP へ掲載
- ②WEB 出願システムの対象拡大
- ③実施試験

【学部】

入試種別		日程等	
学校推薦型選抜	特別指定校推薦	A～C日程	※Ⅶ期追加
	指定校推薦		
	公募推薦		
	推薦スカラシップ		
総合型選抜	高大接続		
	自己推薦	I～Ⅶ期	
	ものづくり特待生	A～C日程	
	女子スカラシップ		
	スカラシップ特待生		
一般選抜	一般入試	A～C日程	
	学力特待生		
	数学特待生		
特別選抜	外国人留学生	A～D日程	※D日程追加
	高専編入学	I～Ⅱ期	
	再入学		

309 名の出願（重複受験を除いた出願者の実数は 255 名）、**201 名（内 1 年生 197 名）入学**

【大学院】

計 4 回実施し、23 名の出願、21 名入学

(2) 学生募集活動

①オープンキャンパスへの集客拡大

- ・ニーズに合わせた営業資料の作成
- ・大学公式 LINE アカウントにて個別質問サービスを実施

②認知度向上・発見接触の強化

- ・地方入試を見据え、長野県、福島県での出張オープンキャンパスを開催
- ・留学生対象オープンキャンパスの開催および WEB で大学を紹介
- ・留学生による母校訪問の実施

③オープンキャンパスの実施

- ・従前のオープンキャンパスに加え、体験特化型や工学探求ワークショップを実施
- ・**17 回/年、740 名の高校生の参加** (前年度比のべ 79 名の減、一昨年度比 50 名の減)

(3) 募集にかかる広報活動

①学生・教職員作成の動画 21 本を SNS に公開

②テレビ、新聞など各メディアに露出([参考]2026 年 3 月 19 日 日本経済新聞朝刊全国版 掲載)

③WEB サイトのユーザビリティ調査を実施し、バナーや文字サイズを調整

④オープンキャンパス開催、出願開始などを都度発信

3. 学生生活指導に関する事項

(1) 学生の心身の健康管理体制の充実

- ・オンラインによるカウンセリングの実施など環境の整備(相談 550 件)
- ・学生生活をサポートするため、学生生活アンケートを実施
- ・健康診断を実施するとともに、学校医による健康指導や月 2 回の健康相談を実施

(2) 留学生支援

- ・月次在籍確認を、Google Form での詳細調査と窓口対面確認のハイブリッド方式で実施
- ・在留期間更新許可申請等の申請取次業務をオンラインで実施
- ・マンツーマン体制のチューターを配置
- ・日本語科目の受講と単位習得のサポート実施
- ・留学生対象奨学金獲得のため、応募書類・課題作文および面接等の個別指導を実施

(3) 学生の安全管理

- ・緊急時訓練などの法令順守教育の指導を実施
- ・寮役員による防災訓練ならびに全個室点検を実施
- ・不測の事態に備える保険加入の推奨

(4) 学生への経済支援

- ・**ものづくり大学奨学金(トヨタ自動車㈱、㈱日立製作所、清水建設㈱寄付) 23 名、**
さくら奨学金(行田さくらロータリークラブ寄付) 4 名、
総合資格学院奨学金 6 名、同窓会奨学金 9 名、生活支援奨学金 19 名支給
- ・メールや WEB サイトを活用した奨学金情報の提供
- ・日本学生支援機構奨学金の説明会を実施するとともに、返還指導を徹底
- ・日本学生支援機構等の奨学金申請(給付型奨学金を含む)を支援し、357 名採択

(5) 課外活動の支援

- ・文化、体育、ものづくり系などの学生サークルのうち、申請のあった 10 団体に活動費を助成
- ・学園祭(碧蓮祭)の企画運営全般について、学生を支援

(6) その他学生支援

- ・国民年金保険料の学生納付特例制度の申請手続き代行業務を実施

4. 学生の就職対策に関する事項

(1) キャリア育成

- ・**キャリアプランノートを活用し、各クォータの履修計画や目標設定、振り返りを行い、PDCA サイクルによる自己啓発や自己評価の習慣化を促進**
- ・社会人基礎力育成講座の実施(学年ごとに7回/年)

(2) 就職支援

- ・**多くの企業との交流による社会人基礎力向上や就職活動に向けた指導の一環として、企業研究交流会を開催**
- ・対面またはオンラインを用いた企業と大学との情報交換会に参加し、求人企業を開拓
- ・大学近郊地域を中心とした企業からの求人情報、企業説明会やインターンシップ等情報を提供
- ・教員を通じて個々の活動状況を把握し、個別連絡を行うなど各々に沿ったフォローを実施
- ・専門キャリアカウンセラーによる適性診断、業種・職種の選定、自己アピール力の強化など対面でカウンセリングを実施(7人体制、約130日間/年)
- ・就職に対する意識向上のため、先輩から貴重な話を聞くOB・OG交流会を実施
- ・近隣企業等の見学を行うバスツアーや公用車を活用した工場見学会を実施
- ・業界・職種研究、自己分析、自己PR、志望動機作成、筆記試験対策、面接対策、SPI対策等の各種就職セミナーを開催
- ・3年生の家族を対象とした就職説明会「家族としての就職サポート術」を開催

(3) 就職実績

情報メカトロニクス学科 100%、建設学科 96%、学部計 97.5%(創立以来平均 97%)
大学院 100%

5. 国際・地域交流事業および社会貢献に関する事項

(1) 国際交流事業

- ・**タイ王国泰日工業大学との国際協定による交換留学プログラムを再開** (4名受入、5名派遣)
- ・協定受入交換留学生に対する支援学生を留学生を中心に配置
- ・海外インターンシップ受入れ企業と連携

(2) 地域等交流事業

- ・**特別公開講座(埼玉県経営者協会共催)**「埼玉県木材イノベーションフォーラムー建築デザインとサプライチェーンが拓く地域産業の新戦略」(講師:武蔵野美術大学若杉教授、榎古川ちいきの総合研究所代表古川氏、パネリスト:(株)ウッディーコイケ取締役副社長小池氏、さいたま家づくりネットワーク事務局長星野氏)を開催・市民特別公開講座(行田市共催)「ふるさと・埼玉の魅力ー埼玉らしさとは」(講師:井坂教授、ゲスト:さいぼん氏)を開催
- ・**「子ども大学ぎょうだ」**(小学生対象)を行田市教育委員会、NPO 法人子育てネット行田、行田市民大学とともに開催
- ・**小学生向けものづくり体験教室**(おもしろものづくり教室、皆野町公民館講座、子ども大学はにゅう、こうのとりSDGsフェスティバル出展)を実施
- ・埼玉純真短期大学、平成国際大学、ものづくり大学の3大学学生の合同研究発表会を平成国際大学で開催
- ・埼玉純真短期大学、平成国際大学、ものづくり大学の3大学IR情報交換・研究会を開催
- ・「ものづくり大学埼玉県地域連絡協議会」の実施
- ・「ものづくり大学教育研究推進連絡協議会」の実施

(3) 社会人教育事業

- ・社会人教育プログラムとして4講座開講(「ロボット導入実践講座」「ロボット活用実演・体験講座」「モジュール化実践講座」「デジタルものづくり革新講座」)
- ・埼玉大学と連携し、文科省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」に参加
- ・(一社)MBD 推進センター(JAMBE)と連携協定を締結し、「デジタルものづくり塾」を共催
- ・企業・業界団体からの研修受入れ

6. 研究等の推進に関する事項

(1) 学内教育研究支援

- ・各学科の教育支援や大学の魅力発信のため、学長裁量費を活用
- ・研究不正行為防止、安全保障輸出管理、人を対象とする研究倫理などのリスク管理実施

(2) 戦略的な産官学連携の推進

- ・「ロボティクス社会実装センター」「地域木材・森林共生研究センター」設置
- ・(一社)日本ロボットシステムインテグレータ協会(Sler 協会)との包括連携協定
- ・社会課題解決の重点分野における自治体・企業への提案活動の実施
- ・企業との組織的連携を目的とした、卒業研究テーマの募集と企業と研究室とのマッチング
- ・「ものづくり大学の研究力」を活用し、情報を発信
- ・埼玉県経営者協会の協力を得て、「埼経協ニュース」で教員の研究を紹介
- ・「令和7年度彩の国ビジネスアリーナ」「さいしんビジネスフェア 2025」に出展し、PR 活動を実施

(3) 外部資金の確保

- ・民間企業等から共同研究 9 件、受託研究 22 件及び奨励寄附研究 25 件、計56 件の研究受入
- ・民間企業等から 79 件の技術相談を受入れ、支援
- ・科学研究費助成事業採択
15 件《代表 5 件(新規 2 件、継続 3 件)、分担 10 件(新規 6 件、継続 4 件)》
内訳は、基盤研究(B)6 件、基盤研究(C)6 件、若手研究 2 件、挑戦的研究(開拓)1 件

7. 情報システムの運用に関する事項

- ・旧事務支援システムの停止に伴うデータ閲覧用ツールの作成
- ・学内ネットワーク、認証基盤、PC 教室基盤の運用
- ・学内ネットワーク整備に伴い、ポータルを利用した出席管理のオンライン化導入・整備
- ・事務局ファイルサーバ及び事務支援システムの運用
- ・コンビニ証明書発行サービスの運用

8. 施設、設備の管理等に関する事項

(1) 施設設備計画部会を中心とした中長期施設設備計画の立案

- ・FM 検討会 5 回実施/年
- ・建物大規模改修計画の費用再検討
- ・空調制御システムの導入検討

(2) 施設、設備更新等

- ・補助金を活用し、製造棟レーザー加工機を更新
- ・実習での修繕内製化(外壁保守、広場整備、側溝整備、内装仕上)実施
- ・第一変電所の蓄電設備更新
- ・LED 照明への切り替え推進

(3) 施設・設備の定期修繕、管理

- ・エレベーター、各棟雨漏れ部分補修
- ・日常点検と定期保守により施設設備を延命化

9. 組織運営に関する事項

(1) 危機管理及びコンプライアンスの推進への取り組み

- ・出張にかかる旅費支給を適正化
- ・情報セキュリティにかかる研修を実施
- ・消防訓練、安否確認訓練の実施

(2) 大学運営の取り組み

- ・恒常的な寄付金募集「学校法人ものづくり大学未来応援募金」を開始
- ・ガバナンスコードについて実績を確認し、ホームページで公表
- ・中長期の財務シミュレーションの実施と財務状況の学内共有
- ・次年度運営方針の策定と共有
- ・次年度予算において、人件費や経費の削減を実施

10. 人事・労務に関する事項

(1) 人材育成

- ・人事異動等に関する職務希望調査と個別面談の実施
- ・目標設定および自己評価による業績評価を実施
- ・FSD 研修会の実施
(広報ブランディング、デジタルマナーと情報セキュリティ、多様な学生への対応、ハラスメント防止研修、大学魅力化とは)

(2) 労務管理

- ・労働時間や有給取得状況の把握
- ・健康診断や産業医による月2回の健康指導を実施
- ・適切な人材配置の検討
- ・勤続 20 年報奨金を支給

Ⅱ-6 教育研究の概要

1. 職員概要

(1) 教育職員数

2026 年 3 月 31 日現在

	技能工芸学部	
	情報メカトロニクス学科	建設学科
教 授	15 名	15 名
准 教 授	3 名	0 名
専 任 講 師	2 名	3 名
助 教	0 名	1 名
助 手	0 名	0 名
専任教員計	20 名	19 名
非常勤講師	38 名	322 名
教 務 職 員	2 名	2 名
合 計	80 名	362 名

※大学院の非常勤講師数は 16 名。非常勤講師数は登録者数

(2) 職員数

2026 年 3 月 31 日現在

	職員数	備考
事 務 局 長	1 名	
事 務 局 次 長	1 名	
本 部 長	1 名	
部 長	0(2) 名	事務局長が事務部長、事務局次長が学務部長を兼務
参 事	3 名	
課 長	3(5) 名	事務局長が総務課長を兼務、参事が教務課長を兼務
課 長 補 佐	1 名	
主 幹	0(1) 名	参事が兼務
企 画 専 門 員	4 名	
係 長	5(7) 名	企画専門員が施設係長、国際交流係長を兼務
専 門 職 員	2 名	
主 任	9 名	
係 員	9 名	
小 計	39 名	
参 与 等	20 名	内訳：経営企画本部 1 名、総務課参与 1 名、教務課参与 2 名、図書館・情報センター 1 名、企画広報係 1 名、教務係 1 名、学生支援係カウンセラー 1 名、就職・IS 係 1 名、入試担当参与 9 名、ものづくり研究情報センター 1 名・参与 1 名
合 計	59 名	

※()は兼務者を含めた数を表す。

職員の中には、嘱託 20 名、契約職員 5 名を含む。

(3) 教学

学 長	國分 泰雄		
技能工芸学部長	佐久田 茂	教 務 長	田尻 要
学長補佐(広報担当)・図書館・メディア情報センター長	井坂 康志	ものづくり研究情報センター長 理事長補佐(自己点検評価、経営戦略担当)	荒木 邦成
学長補佐(教育連携推進担当) 理事長補佐(財務マネジメント担当)	大塚 秀三	教養教育センター長 学長補佐(教育組織改革担当)	澤本 武博
学長補佐(情報環境改革担当)	三井 実	学長補佐(施設設備整備将来計画担当)	三原 斉

情報メカトロニクス学科 専任 20 名、教務職員 2 名			
役職	氏名	学位	担当
教授	荒井 豊	工学士	安全衛生、自動車生産技術
センター長・教授	井坂 康志	博士(商学)	Drucker で学ぶマネジメント
教授	岡根 利光	博士(工学)	鋳造技術実施、鋳造基礎実習
教授	香村 誠	博士(工学)	流体力学、伝熱工学
学部長・教授	佐久田 茂	工学博士	実践機械製図、工学基礎実習
教授	菅谷 諭	博士(工学)	半導体、基礎物理実験
教授	武雄 靖	博士(工学)	測定基礎実習、機械加工基礎実習
教授	永井 孝	博士(工学)	Python 基礎実習、IoT 技術
教授	原 薫	工学士	機械力学実験、2次元 CAD 実習
教授	ビチャイ・サエチャウ	工学博士	電気工学概論、基礎電気工学実習
教授	堀内 勉	博士(理学)	材料強度、マイクロデバイス
教授	町田 由徳	工学士	ユーザー工学、基礎機械製図実習
学科長・教授	松本 宏行	博士(工学)	基礎数値、ものづくり CAE 応用および演習
学長補佐・教授	三井 実	博士(情報科学)	電気電子技術、デジタル回路実習
教授	山口 裕之	博士(工学)	アナログ回路および実習、自動制御および実習
准教授	上原 健嗣	博士(情報科学)	デジタル回路および実習、ものづくり数理工学
准教授	平野 聡	博士(工学)	制御技術実験、ロボット機構
准教授	牧山 高広	博士(工学)	溶接基礎・板金基礎実習、鋳造加工実習
講師	土井 香乙里	修士(文学)	英語 I ～ III
講師	細合 晋太郎	博士(情報科学)	信頼性工学、ロボット技術
教務職員	加藤 祐樹		
教務職員	松田 大作		

建設学科 専任 19 名、教務職員 2 名			
役職	氏名	学位	担当
学科長・教授	今井 弘	博士(工学)	建築応用設計実習、基礎設計製図実習
教授	大垣 賀津雄	博士(工学)	鋼構造、構造物強度設計実習
理事長/学長補佐・教授	大塚 秀三	博士(工学)	RC 施工、建築観察学
教授	岡田 公彦	工学士	基礎設計製図実習、建築法規
教授	佐々木 昌孝	博士(工学)	家具技能実習、木材基礎
教授	澤田 正樹	博士(工学)	建築法規、建築設備設計および実習
センター長・教授	澤本 武博	博士(工学)	RC 構造物診断実習、社会基盤
教授	高橋 宏樹	博士(工学)	人間工学、救命衛生法
教授	田尻 要	博士(工学)	都市計画、水理・土質工学
教授	土居 浩	博士(学術)	ものづくり・ひとづくり総合講義
教授	戸田 都生男	博士(学術)	住宅論、木造基礎実習
教授	松岡 大介	博士(工学)	環境調査測定実習、環境設計実習
教授	間藤 早太	学士(工学)	木造軸組工法、構造力学
学長補佐・教授	三原 斉	博士(工学)	工程計画、建築生産
教授	横山 晋一	博士(工学)	近現代建築史、保全・保存修復学
講師	荒巻 卓見	博士(工学)	構造基礎実習、材料力学
講師	大竹 由夏	博士(デザイン学)	基礎設計製図実習、インテリア計画
講師	芝沼 健太	修士(工学)	構造力学、木造基礎実習
助教	奥崎 優	博士(工学)	木造応用実習、木造基礎実習
教務職員	石井 哲也		
教務職員	兵頭 冬尉		

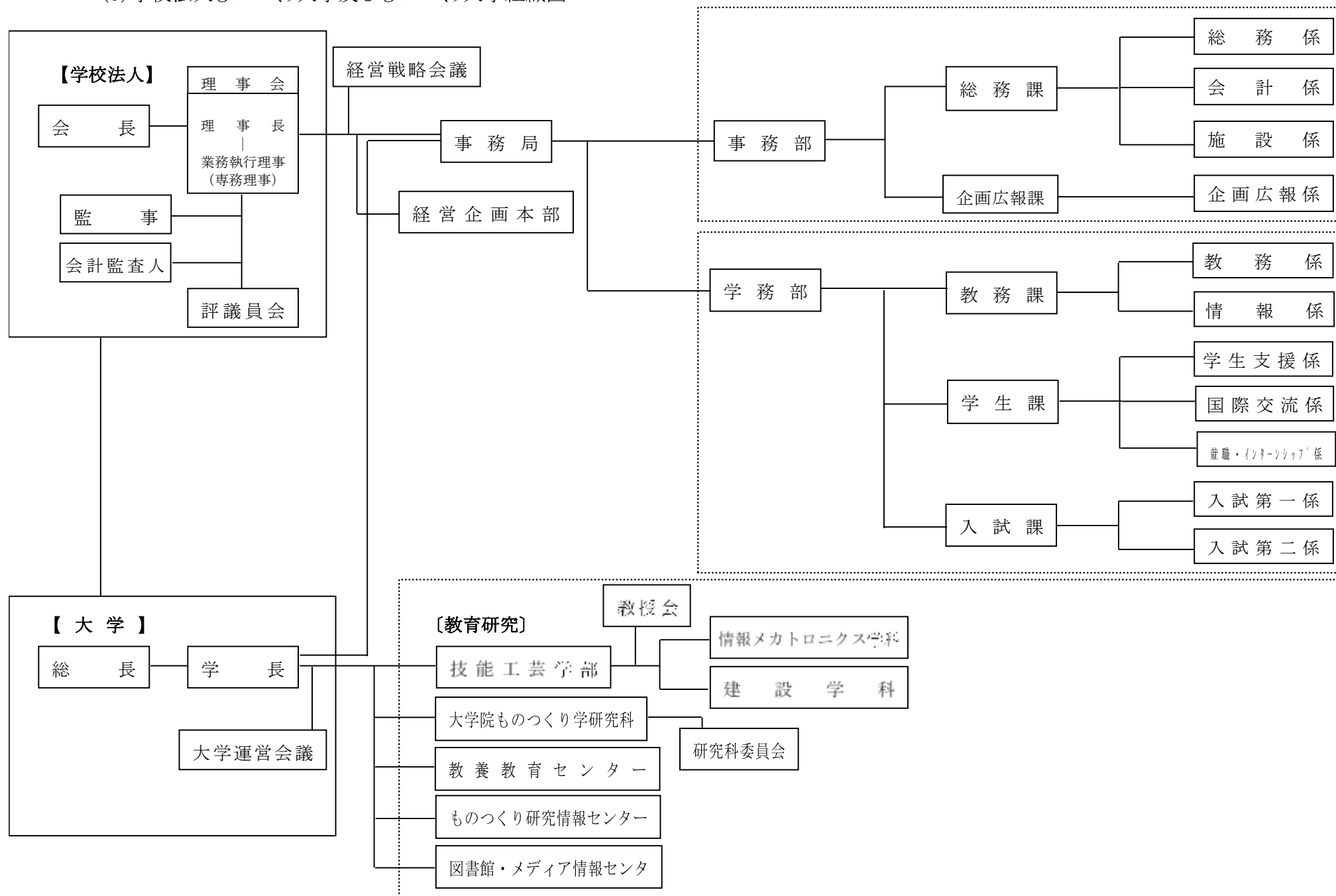
ものづくり研究情報センター		
役職	氏名	備考
センター長(兼務)	荒木 邦成	経営企画本部長と兼務
主 幹	眞鍋 伸次	
図書館・メディア情報センター		
役職	氏名	備考
センター長(兼務)	井坂 康志	情報メカトロニクス学科 教授
参事・教務課長	鎌澤 かおり	

(4) 事務局

役職	氏名	備考
事務局長	大藤 生氣	
事務局次長	窪田 岳領	
事務部長	(大藤 生氣)	
参事	眞鍋 伸次	
総務課長	(大藤 生氣)	
会計係長	宮原 正行	
企画専門員兼施設係長	増田 裕一	
企画広報課長	岩崎 一真	
経営企画本部長	荒木 邦成	
経営企画本部副部長	(鎌澤 かおり)	
企画専門員	長谷川 和美	
学務部長	(窪田 岳領)	
参事	杉浦 正和	
参事	大田 義三	
参事	鎌澤 かおり	
教務課長	(鎌澤 かおり)	
教務課長補佐	岩間 由美	
情報係長	根本 力弥	
学生課長	久力 一誠	
企画専門員	高村 さとみ	
学生支援係長	工藤 淳	
就職・インターンシップ係長	長谷川 真紀	
入試課長	斉藤 由匡	
企画専門員	永島 志津江	
入試第一係長	上原 苑子	
主幹	(眞鍋 伸次)	ものづくり研究情報センター

() 表記は兼務

(5) 学校法人ものづくり大学及びものづくり大学組織図



2. 学修の成果に係る評価及び卒業・修了認定基準

(1) 成績評価基準

点数区分	評価の表示方法	合否
100～90 点	S	合格
89～80 点	A	
79～70 点	B	
69～60 点	C	
認定(学部のみ)	N	
59～0 点	E	不合格

(2) 卒業要件等

		技能工芸学部	大学院
卒業要件 単位数	2021 年度以前入学者	130	30
	2022 年度以降入学者	124	
取得可能学位		技能工芸学士	ものづくり学修士

3. 学生納付金

(1) 大学

種別	入学時	2～4年次各年度
入学料	200,000 円	—
授業料	880,000 円	880,000 円
実験実習費	260,000 円	310,000 円
施設設備費	260,000 円	310,000 円
合計	1,600,000 円	1,500,000 円

②大学院

種別	入学時	2年次
入学料*	200,000 円	—
授業料	480,000 円	480,000 円
実験実習費	160,000 円	160,000 円
施設設備費	160,000 円	160,000 円
合計	1,000,000 円	800,000 円

*学内生は入学金全学免除。

4. 学生支援

(1) 奨学金制度

独自奨学金について、4月11日から5月23日の期間で募集を実施

① ものづくり大学奨学金(給付)

応募資格	・学部、大学に在籍する2年次の学生 ・学業優秀、人物健康ともに優れ経済的に困窮しているもの ・ものづくりに秀で、熱意があり、かつ経済的に困窮しているもの	
給付額	学部生	1人 30万円(年額)
	大学院生	1人 45万円(年額)
採用人数 (2025年度)	情報メカトロニクス学科	5名
	建設学科	15名
	大学院	3名

② ものづくり大学さくら奨学金(給付)

応募資格	・学部、大学に在籍する3年次・4年次の学生 ・学業優秀、人物健康ともに優れ経済的に困窮しているもの ・ものづくりに秀で、熱意があり、かつ経済的に困窮しているもの	
給付額	1人 12万円(年額)	
採用人数 (2025年度)	情報メカトロニクス学科	2名
	建設学科	2名

③ ものづくり大学生生活支援奨学金(給付)

応募資格	・経済的に困窮しているもの ※大学受験前の採用確認が可能
給付額	10万円(年額)
採用人数	19名

④ 総合資格学院奨学金(給付)

応募資格	・建設学科に在籍する3年次・4年次の学生 ・学業成績が優秀で学習意欲に富み、かつ、人物健康とも優れ将来が嘱望されるもの ・家計が経済的に窮しているもの	
給付額	1人 12万円(年額)	
採用人数 (2025年度)	建設学科	6名

⑤ ものづくり大学同窓会奨学金(給付)

応募資格	・学部2年次以上及び大学院に在籍する者 ・修業年限内での修業が見込め、一層の能力向上を目指す者 ・同窓会費を納入済みの者 ・卒業後、同窓会事業に協力できる者	
給付額	1人 12万円(年額)	
採用人数 (2025年度)	情報メカトロニクス学科	3名
	建設学科	3名
	大学院	1名

※日本学生支援機構奨学金

種別	募集時期	採用内訳	金額(月額)
給付	4月～11月	1年次:33名 2年以上:54名	自宅:12,800円～38,300円 自宅外:25,300円～75,800円
第1種(貸与)	4月～11月	1年次:6名 2年以上:10名	自宅:20,000円～54,000円 自宅外:20,000円～64,000円
第2種(貸与)	4月～11月	1年次:10名 2年以上:9名	20,000円～120,000円

(2)健康支援

①保健センター

保健センターでは、大学の指定病院の医師が特定の日に学生の相談や学内でのケガ、体調不良などに対応している。その他、救急患者への病院紹介や救急箱及消毒用アルコールの貸出等を行っている。

②ふれあいルーム

ふれあいルームは、心のサポートを目的として、カウンセラーへの相談やコミュニティの場として設置されている。

5. 学習環境

【キャンパス所在地】 埼玉県行田市前谷 333 番地

【主な交通手段】 JR 高崎線 吹上駅 下車

バス 前谷経由「ものづくり大学前」下車／佐間経由「ものづくり大学入口」下車

(1)キャンパスの概要(構内敷地面積 約 12.0 万 m²、校舎面積 約 3.4 万 m²)

建物		その他施設	
大学本部・図書情報センター	3,789 m ²	グラウンド	5,490 m ²
製造棟	10,114 m ²	テニスコート	1,969 m ²
建設棟	6,737 m ²		
中央棟	3,757 m ²		
体育館	1,921 m ²		
大学会館	1,970 m ²		
ドーム・合宿研修センター	6,111 m ²		

※ドーム定員 200 名

(2)校舎配置図



(3) 図書館・メディア情報センター

区分	2024 年度 蔵書数	2025 年度増減数				2025 年度 蔵書数
		購入	寄贈等	除籍	区分変更	
図書	53,535	14	2,980	△706	0	55,823
電子書籍	41	0	0	0	0	41
視聴覚資料	2,107	0	14	0	0	2,121
計	55,683	14	2,994	△706	0	57,985

6. 就職支援と就職状況(大学院進学を含む)

(1) 就職支援

①就職・インターンシップ委員会

就職に関する事項の審議を通じた就職活動支援を行うとともに、インターンシップ先企業の開拓やインターンシップを円滑に行うための施策を検討する。

②学生課 就職・インターンシップ係

就職・インターンシップ委員会の担当部署として就職支援活動全体の企画・運営を行うとともに、次の業務を行う。

- ・求人情報の他、各種の就職関連資料、ならびに公務員や大学院の試験準備等に関連する資料を整備し、学生の就職活動を支援。
- ・本学独自の長期間のインターンシップに関する情報を収集整理し、インターンシップ履修学生に提供。
- ・雇用情勢、企業ニーズ等の就職関連情報の収集・分析に基づく就職支援全般の企画立案。
- ・就職先企業の開拓、企業訪問、採用担当者の大学視察・企業研究交流会への勧誘などの諸活動。
- ・就職希望先の絞込み、面接支援などの学生への個別就職指導。

(2) 就職状況

①学位授与者数(2025年度)

学部	学科	学士(人)
技能工芸	情報メカトロニクス	88
	建設	160

研究科	修士(人)
ものづくり学研究科 ものづくり学専攻	10

②学部卒業生の就職状況(過去5年間)

【学部卒業生の就職状況 概要】

2025年5月1日現在

	2025年度 卒業生数(人)	民間就職 希望者数(人)	民間企業 就職者数(人)	民間企業 就職率(%)	公務員希望 者数(人)	公務員就職 者数(人)	就職率 (%)	大学院等 進学者(人)	就職外 希望者(人)	進路未決 定者(人)
情報メカトロニクス学科	88	74	74	100.0%	0	0	100.0%	11	3	1
建設学科	143	124	119	96.0%	1	1	96.0%	15	3	5
合計	231	198	193	97.5%	1	1	97.5%	26	6	6
2024年度 (第21期生)	248	222	218	98.2%	3	2	97.8%	14	9	5
2023年度 (第20期生)	271	232	229	98.7%	6	6	98.7%	15	18	3
2022年度 (第19期生)	262	242	240	99.2%	0	0	99.2%	12	8	2
2021年度 (第18期生)	251	203	200	98.5%	5	5	98.6%	22	21	3

*対象者には、各年度1Q～3Q卒業を含む。

*就職者には公務員を含む。

*就職以外は、大学院等進学者、起業予定、自由業関係志望、アルバイト・トライアル雇用など。

③大学院修了生の就職状況(過去5年間)

【大学院修了生の就職状況 概要】

2025年5月1日現在

	2025年度 修了生数(人)	民間就職 希望者数(人)	民間企業 就職者数(人)	民間企業 就職率(%)	公務員希望 者数(人)	公務員就職 者数(人)	就職率 (%)	大学院等 進学者(人)	就職外 希望者(人)	進路未決 定者(人)
ものづくり学 専攻科	16	13	13	100.0%	1	1	100.0%	1	1	0
2024年度 (第19期生)	10	6	6	100.0%	0	0	100.0%	2	2	0
2023年度 (第18期生)	10	9	9	100.0%	0	0	100.0%	0	1	0
2022年度 (第17期生)	11	11	11	100.0%	0	0	100.0%	0	0	0
2021年度 (第16期生)	6	5	5	100.0%	0	0	100.0%	0	1	0

学部第 22 期生および大学院第 20 期生の就職先一覧

- 2026 年 5 月 1 日現在
- 分野ごとに五十音順表記
- 大学院生は各分野に振り分けて記入

【情報メカトロニクス学科】

A. 輸送用機械器具製造業

株式会社池田製作所
いすゞ自動車株式会社
AeroEdge 株式会社
河西工業株式会社
トヨタ自動車東日本株式会社
寿屋フロンテ株式会社
埼玉機器株式会社
株式会社フィアコホレーション

B. 鉄道・運輸

西濃運輸株式会社

C. 電気機械器具製造業

株式会社アイ・ディ・ケイ
株式会社システナ
フォスター電機株式会社
フジテック株式会社

D. 一般機械器具製造業

株式会社キッツエスシー
酒井重工業株式会社
三光機械株式会社
サンライズ工業株式会社
株式会社アビリカ
ダイサン・株式会社
株式会社中西製作所
株式会社長谷川機械製作所
株式会社日立コトランスミッション
株式会社ホリゾン
株式会社御池鐵工所
三井精機工業株式会社
株式会社ミキエンジニアリング
株式会社ユー・コーポレーション

E. 金属製品製造業

三協立山株式会社
株式会社シンニッタン
千住金属工業株式会社
日本電鍍工業株式会社
株式会社ハードコート
坂東電線株式会社
美濃工業栃木株式会社

F. 化学工業およびプラスチック・ゴム・食品・その他の製造業

株式会社アサヒ
株式会社アプリス
パイロットインキ株式会社
株式会社ハウステック
福岡パッキング株式会社
株式会社フコク
古谷電機工業株式会社

G. 機械設計・システム設計・デザイン・その他の専門サービス業

株式会社 iHOLON
株式会社アスパーク
株式会社 NTT データ・エム・シー・エス
クロス・ヘッド株式会社
恒和情報技研株式会社
株式会社スタッフサービス
蓼科情報株式会社
株式会社テクノプロ
トランス・コスモス株式会社
日研トータルソーシング株式会社
パースルクロステクノロジー株式会社
株式会社フォーラムエンジニアリング

株式会社 BREXA Technology
株式会社メイトックフィルターズ

H. 印刷・同関連

I. 建設業・設備工事業

ジョンソンコントロールズ株式会社
千代田化工建設株式会社
中村電設工業株式会社
株式会社ノア
富士電機 E&C 株式会社
ミカタ株式会社
三菱ケミカルエンジニアリング株式会社

J. 卸売・小売・一般サービス・その他

アー克蘭ズ株式会社
FPT ジャパンホールディングス株式会社
株式会社小田急エンジニアリング
システム・システムズ株式会社
ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社
株式会社クワライン・ソリューション
株式会社ノジマ
株式会社マイスターエンジニアリング
株式会社ライコホレーション
大学共同利用機関法人
自然科学研究機構国立天文台

K. 公務員

■大学院等進学

埼玉大学大学院
ものづくり大学大学院

【建設学科】

A. 一般土木工事業

株式会社浅沼組
小川工業株式会社
奥村組土木興業株式会社
株式会社鹿熊組
川口土木建築工業株式会社
加和太建設株式会社
北野建設株式会社
株式会社熊谷組
京王建設株式会社
京王建設横浜株式会社
五洋建設株式会社
佐藤工業株式会社
西武建設株式会社
大成建設株式会社
TSUCHIYA 株式会社
東亜建設工業株式会社
東康建設工業株式会社
東洋建設株式会社
常磐建設株式会社
初雁興業株式会社
株式会社松永建設
丸和工業株式会社

B. 土木工事業（造園含む）

川田工業株式会社
こぐれ建設株式会社
首都高メンテナンス東京株式会社
東亜道路工業株式会社
巴山建設株式会社
向井建設株式会社

C. 建築工事業（木造・リフォーム含む）

芦葉工藝社株式会社
有限会社綾部工務店
有限会社板井工務店
株式会社一条工務店
株式会社内田産業
有限会社コバヤシ
住協建設株式会社
株式会社新昭和
伸明建設株式会社
スターツ CAM 株式会社
高橋建築株式会社
注文建築大工松本
株式会社東栄住宅
株式会社鳥羽瀬社寺建築
ニッケン建設株式会社

日本建設株式会社
日本住宅株式会社
初雁木材有限会社
原島木匠工房
広島建設株式会社
株式会社ファイブイズホーム
不二建設株式会社
株式会社富士住建
ポラス株式会社
株式会社マルキ
三菱地所ホーム株式会社
株式会社村上建築工舎
八木建設株式会社
株式会社山田建設
株式会社横尾材木店
株式会社横河ブリッジ

D. ハウスメーカー

茨城セキスイハイム株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社ホームライフ
株式会社ミサワホーム静岡

E. 専門工事業

株式会社小野創建工業
関綜エンジニアリング株式会社
株式会社共和エレクトリック
株式会社小西美術工藝社
佐藤電設工業株式会社
株式会社シミズオクト
ジャパンパイル株式会社
株式会社笑栄
株式会社住之江工芸
株式会社大黒屋
株式会社東京志村
株式会社巴コーポレーション
中島工業株式会社
株式会社浪花組
株式会社長谷工リフォーム
HAL エン지니어リング株式会社
ホームテック株式会社

F. 建築資材等各種製造業

株式会社 IHI インフラキア
株式会社内山アドバンス
家具工房そらいろのたね
太平洋マテリアル株式会社
日本住環境株式会社
日本ファブテック株式会社

飛驒産業株式会社
文化シャッター株式会社
有限会社山田建具

G. 設計・デザイン・コンサルティング・舞台美術等専門サービス業

株式会社池下設計
開発虎ノ門コンサルタント株式会社
株式会社格和測量設計
株式会社グローバル BIM
株式会社山英
東葉コンサルタント株式会社
中日本ハイウェイ・エンジニアリング 東京
株式会社
株式会社日本エーコン
株式会社ノムラメディアス
森田建築設計事務所
公益財団法人日光社寺文化財
保存会

H. 不動産業

イオンディライト株式会社
ケイアイスター不動産株式会社
J R 東日本ビルディング株式会社
東京都住宅供給公社
ビューハウス株式会社
大和財託株式会社

I. 卸売・小売・一般サービス業・その他

宗教法人巖島神社
兼希工業株式会社
株式会社スズキ自販関東
株式会社スタッフサービス
株式会社ビックカメラ
株式会社 BREXA Engineering
株式会社 BREXA Technology
株式会社横浜シミズ

K. 公務員

愛媛県立宇和島産業技術専門校

■大学院進学等

神奈川大学大学院
多摩美術大学大学院
ものづくり大学大学院

以上

7.管理運営の概要

(1) 情報公開

私立学校法(第106条)の定めのとおり、学校法人の概要、事業の概要、財務の概要を記載した事業報告書をホームページで公開している。

Ⅲ. 財務の概要

1. 主要機器整備状況

①情報メカトロニクス学科

【加工機械】

- 5 軸制御加工機
- 超精密旋盤・研削盤
- 立型マシニングセンタ
- 小型マシニングセンタ
- 汎用旋盤
- 超精密研削加工装置
- 各種精密研磨加工機
- 万能工具研削盤
- 液圧バルジ試験機
- 各種溶接機
- 精密プレス各種
- ポリッシュ盤
- 射出成形機
- 光造形装置
- 3D プリンタ
- CNC 平面研削盤
- 立型フライス盤
- 横型フライス盤
- 片面・両面ラップ盤
- 各種放電加工装置
- 万能円筒研削盤
- 開先加工機
- 各種熱処理・電気炉
- ナノ転写・加工・評価機構
- 高周波溶解炉
- CNC 自動旋盤
- ダイキャスト製造機
- 精密試料切断機
- 炭酸ガスレーザー加工機
- シャーリングマシン
- NC タレットパンチプレス
- コーナーシャー
- プレスブレーキ
- リニアモーター駆動ワイヤ放電加工機
- ドライエッチング装置
- CNC旋盤
- 高速精密切断機
- 平面研削盤
- S型スポット溶接機
- 大型液晶タブレット
- 溶剤プリンター
- UV プリンター
- 大型カッティングプロッタ
- 工業用ミシン
- CNC ルータ
- ロボットアーム式 3D プリンター
- ペレタイザ
- マルチマテリアル&マルチカラー式 3D プリンター

【計測・測定機械】

- 走査型電子顕微鏡
- 光干渉平面度測定装置
- 原子間力顕微鏡
- CNC 三次元座標測定機
- LDレーザーマーカー
- 表面粗さ測定機(フォームタリサーフ S6)
- 万能材料試験機
- 表面形状測定顕微鏡
- レーザードップラ振動計
- 真円度測定機
- 形状表面粗さ測定機
- X 線透視検査システム
- 二次元画像処理システム
- 磁粉探傷装置
- 超微小硬度計
- 顕微鏡式光干渉平面度測定機
- フローテスター
- ダイナミックシグナルアナライザ
- レーザー変位計
- レーザー測長器
- 走査型プローブ顕微鏡装置
- ビッカース硬さ試験機
- FFT アナライザー
- 視線情報分析処理装置
- レーザー干渉計
- 観察用電子顕微鏡
- デジタルマイクロスコープ
- ハイスピードビデオカメラ
- 液中ナノパーティクルセンサーシステム
- レーザー測長システム
- スコープコーダ
- デジタル・マルチメータ

【実験装置】

- 大型人協働ロボット
- 摩擦摩耗試験機
- ロボット搬送システム
- プロセス制御実験装置
- 電気サーボ自動制御実験装置
- 冷凍冷房性能実験装置
- 熱交換実験装置
- 電気油圧サーボ機構実験装置
- たて型動釣合試験器
- クランクピストン運動解析実験装置
- 直流特性実験装置
- スパッター装置
- 振振動実験装置
- センサー特性実習装置
- スカラーロボット
- 多関節ロボット
- マスクアライナー
- ドラフトチャンバー
- クリーンルーム
- 自動化システム基礎実習装置
- 誘導電動機特性実験装置
- YAG レーザー
- 赤外線画像装置
- 熱複合分析装置
- カットエンジン
- 3 次元 CAD/CAM システム
- ナノテクノロジー支援システム
- デジタルマイクロスコープ
- 高濃度マイクロバブル発生装置
- 精密レーザー実験装置
- マイクロバブル発生装置
- 摩擦実験装置
- 回転軸危険速度実験装置

【3 次元デジタルものづくり技術教育システム】

(2012 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

- ハンディ3D スキャナー 1 台
- 3 次元造型機(3D プリンタ) 2 台
- Speedy 300 Flexx(2.5 次元彫刻機) 1 台

(2015 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

- ハンディ3D スキャナー 1 台
- 3 次元造型機(3D プリンタ) 1 台
- 小型 3 次元造型機(3D プリンタ) 30 台

(2015 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

- 3 次元力覚デバイス
- ポジションセンサ
- 映像投影用プロジェクタ装置
- データグローブ

②建設学科

【加工機械】

- | | |
|---------------|---------------|
| □ 木工帯のこ盤 | □ 糸のこ盤 |
| □ 手押しかんな盤 | □ 角のみ盤 |
| □ 自動一面かんな盤 | □ ボール盤 |
| □ 仕上げ用高精度かんな盤 | □ パネルソー |
| □ 昇降丸のこ盤 | □ NC 多軸木工ルーター |
| □ 軸傾斜丸のこ盤 | □ ルーターマシン |
| □ 木工旋盤 | □ ユニバーサルサンダー |

【試験・測定機械】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| □ 3000KN 構造物試験機 | □ 荷重計(ロードセル)100kN |
| □ 反力床 | □ 一面せん断試験装置 |
| □ 反力壁(2000t) | □ 1000KN ジャッキ |
| □ コンクリート圧縮試験機 | □ 500KN 動的ジャッキ |
| □ 三軸圧縮試験用具 | □ 復動型油圧シリンダ |
| □ 室内機密性能測定器 | □ サーボバルブ |
| □ FFT アナライザー | □ 荷重計(ロードセル)200 kN |
| □ キセノンテスター | □ 荷重計(ロードセル)300 kN |
| □ 熱伝導率測定装置 | □ データロガー |
| □ 分光測色計 | □ 変位計 |
| □ 偏光顕微鏡 | □ 鉄筋探知器 |
| □ 三次元動作解析装置 | □ 超音波検査装置 |
| □ スウェーデン式貫入試験器 | □ シュミットハンマー |
| □ 平板載荷試験装置 | □ 含水率計 |
| □ 室内風量測定器 | □ 電子台はかり |
| □ 電子セオドライト | □ 超小型動ひずみレコーダー |
| □ 振動計 | □ 樹脂充填確認装置 |
| □ 騒音計 | □ プロクター貫乳試験機 |
| □ 金属顕微鏡 | □ 中性化試験装置 |
| □ 万能試験機 100kN | □ 全自動オートクレーブ装置 |
| □ 万能試験機 200T | □ クロソイド定規 |
| □ 荷重計(ロードセル)20T | |
| □ 荷重計(ロードセル)50T | |

(2013 年度私立大学等教育研究活性化整備事業)

- 2次元地震波振動実験台および計測装置

【設備】

- | | |
|------------------------|----------------|
| □ 鉄骨建て方実習設備 | □ 高圧洗浄機 |
| □ プレハブ式恒温高湿度室 | □ エアーコンプレッサー |
| □ ホイストクレーン 10t/5t/2.8t | □ 屋外作業用照明装置 |
| □ たてこみ簡易土留材 | □ 油圧ジャッキ |
| □ 大型熱風循環式乾燥機 | □ 油圧ポンプ |
| □ 養生水槽用恒温水調節循環装置 | □ 電気チェーンブロック |
| □ ミニバックホウ | □ 水中ポンプ |
| □ 塗装ブース | □ 構造物試験用箱形フレーム |
| □ ディーゼル発電機 | |

- | | |
|-----------------|------------------|
| □ 静的加力実験用油圧システム | □ 溶接棒乾燥機 |
| □ 油圧ユニット | □ 自動ガス切断装置 |
| □ 恒温恒湿器 | □ 刃物研削ラップ盤 |
| □ コンクリート平面研削盤 | □ 集塵装置 |
| □ コンクリートカッター | □ 木工作業台 |
| □ 中型コンクリート裁断機 | □ マルチメディアプロジェクター |
| □ 電動式油圧ポンプ | □ CCDカメラ |
| □ コンクリートブレーカー | □ 書画カメラ |
| □ コンクリートコアドリル | □ 大型タッチパネル装置 |
| □ 鉄筋切断機 | □ ロッド引揚げ用ジャッキ |
| □ 高速カッター | □ レーザー墨だし器 |
| □ 鉄筋曲機 | □ エンジンプレート |
| □ 電動ミキサー | □ BD レコーダー |
| □ 強制練ミキサー | □ プロジェクター |
| □ モルタルミキサー | □ 高所作業車(電動・エンジン) |
| □ 交流アーク溶接機 | □ 走査位置決め装置 |
| □ 炭酸ガス半自動溶接機 | |

【ものづくり大学気象観測ステーション】

(2014 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

- | | |
|-------------|-----------|
| □ 分光放射計 3 台 | □ 日射計 2 台 |
| □ 直達日射計 | □ 照度計 2 台 |
| □ 直射照度計 | □ 日照計 |
| □ 太陽追尾装置 | □ 複合気象装置 |

(2015 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

- 直立日射分光放射計

(2016 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

- 一層式凍結融解試験機
- 促進中性化試験装置
- 透気試験機
- データロガー

2. 機器の寄附受入状況

品名	数量	納入年月日	寄附会社名
炭酸ガスレーザー加工機	1	2001 年 6 月 20 日	株式会社アマダ
シャーリングマシン	1		
NC タレットパンチプレス	1		
コーナーシャー	1		
プレスブレーキ	1		
ネットワーク対応自動プロ	1		
金型	2		
型彫放電加工機	1	2001 年 7 月 31 日	株式会社ソディック
ワイヤ放電加工機	1		
創成研磨装置	1	2001 年 9 月 19 日	株式会社日立製作所
低歪み切断ユニット	1		
フォークリフト(2t)	1	2001 年 9 月 26 日	トヨタ自動車株式会社
フォークリフト(1t)	1		
カットエンジン	1	2001 年 11 月 27 日	
乗用車(マークⅡ)	1	2001 年 11 月 28 日	
マイクロバス(グランビア)	1		
教材車	1		
Ar レーザ発信器	1	2002 年 3 月 25 日	日本電気株式会社
プレス機械(付属品含む)	1	2002 年 3 月 29 日	株式会社栗本鐵工所
EB 外観検査装置	1	2002 年 6 月 7 日	株式会社日立製作所
膜厚検査装置	1		
微少異物検査装置	1		
パソコン等	2	2002 年 6 月 17 日	サン・マイクロシステムズ株式会社
高所作業車	3	2002 年 7 月 29 日	株式会社アイチコーポレーション
ロボット	1	2002 年 8 月 12 日	株式会社倉川製作所
積載型トラッククレーン	1	2003 年 11 月 14 日	株式会社アイチ研修センター
CNC 自動旋盤	1	2004 年 3 月 24 日	シチズン精機株式会社
自動棒材供給機	1	2004 年 4 月 20 日	(株)奈良精機製作所
ヘルメット	92	2004 年 4 月 30 日	木塚株式会社
精密平面研削盤	1	2004 年 8 月 26 日	(株)豊田中央研究所
電動射出形成機	1	2005 年 2 月 25 日	横田 誠
走査電子顕微鏡	1	2006 年 10 月 17 日	有限会社森住製作所
材料強度試験器	1	2007 年 5 月 31 日	西松建設株式会社
供試体端面研磨機	1		
恒温装置	1		
マックス釘打機械一式	1	2007 年 9 月 28 日	マックス株式会社

振動ドリルドライバ	5	2008 年 1 月 31 日	ポリプリベット・ファスナー株式会社
木工道具等一式	1	2012 年 3 月 30 日	林 茂
照明器具一式	1	2012 年 3 月 30 日	岩崎電気株式会社
プレス機	1	2012 年 8 月 30 日	畑 一男
木工機械等	26	2012 年 9 月 24 日	ペンギン村地域デイケア施設わくわく
手桶制作道具一式	1	2012 年 12 月 20 日	鈴木 秀夫
3Dプリンタ (PROJET HD3000)	1	2014 年 10 月 9 日	株式会社三ツ矢
照明器具一式	1	2015 年 7 月 31 日	岩崎電気株式会社
分電盤	1	2016 年 6 月 15 日	福島電気株式会社
大工道具一式	1	2017 年 7 月 26 日	山口 幸夫
溶解設備(高周波炉)一式	1	2019 年 3 月 14 日	一般社団法人日本鋳造協会
LED 設備一式	1	2019 年 12 月 16 日	福島電気株式会社
ラインアレイスピーカー	1	2020 年 12 月 23 日	武蔵野銀行(株)中村組)
3D プリンター (Sermoon D1)	1	2021 年 8 月 20 日	株式会社サンステラ
多関節ロボット	1	2024 年 3 月 1 日	三立精機株式会社 Q-Brain 株式会社

3. 決算の概要

(1) 資金収支計算書関係

資金収支計算書は、支払資金の収入(資金収入)と支出(資金支出)の内容・顛末を明らかにし、予算管理で利用する計算書です。収入の部には、前受金や未収入金及び前年度からの繰入金が含まれます。また、支出の部には、前払金や未払金及び翌年度への繰越金が含まれ、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

① 資金収支計算書の状況

＜総括表＞ (単位 円)			
収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,388,845,000	1,395,310,000	△ 6,465,000
手数料収入	8,682,000	8,406,280	275,720
寄付金収入	23,430,000	23,388,000	42,000
補助金収入	199,508,000	227,317,787	△ 27,809,787
国庫補助金収入	199,508,000	226,594,900	△ 27,086,900
地方公共団体補助金収入	0	722,887	△ 722,887
資産売却収入	0	264,864	△ 264,864
付随事業・収益事業収入	169,094,000	168,515,524	578,476
受取利息・配当金収入	6,345,000	6,345,200	△ 200
雑収入	63,097,000	61,749,148	1,347,852
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	426,689,000	422,617,240	4,071,760
その他の収入	525,596,000	517,084,087	8,511,913
資金収入調整勘定	△ 627,668,000	△ 613,770,854	△ 13,897,146
前年度繰越支払資金	1,183,324,255	1,183,324,255	
収入の部合計	3,366,942,255	3,400,551,531	△ 33,609,276
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,082,103,000	1,054,991,758	27,111,242
教育研究経費支出	681,304,000	597,798,254	83,505,746
管理経費支出	297,365,000	260,366,727	36,998,273
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	1,729,000	1,277,875	451,125
設備関係支出	49,123,000	14,457,662	34,665,338
資産運用支出	244,834,000	244,334,000	500,000
その他の支出	366,185,000	378,387,848	△ 12,202,848
〔予備費〕	(0) 10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△ 115,978,000	△ 113,319,669	△ 2,658,331
翌年度繰越支払資金	750,277,255	962,257,076	△ 211,979,821
支出の部合計	3,366,942,255	3,400,551,531	△ 33,609,276

収入

学生生徒等納付金収入: 約 954 人
13 億 9,531 万円 (前年度比減)
手数料収入: 入学検定料や各種証明書
手数料等収入 840 万円 (前年度比減)
寄付金収入: 研究奨励寄付、クラウドフ
ァンディング他使途特定寄付
2,338 万円 (前年度比減)
補助金収入: 私立大学等経常費補助
金等国の補助金収入 2 億 2,731 万円
(特別補助修学支援事業増額により、
前年度比増)
資産売却収入: 保有資産の売却収入
26 万円
付随事業・収益事業収入: 学生寮や外
部から委託を受けた研究にかかる収入
1 億 6,851 万円 (研究受入金額増により、
前年度比増)
受取利息・配当金収入: 債券運用収
入 634 万円
雑収入: 私立大学退職金財団からの交
付金収入他 6,174 万円 (前年度比増)
前受金収入: 翌年度の学生生徒等納
付金 4 億 2,261 万円 (前年度比減)

支出

人件費支出: 教職員(非常勤含)、役員、
アルバイト等支出 10 億 5,499 万円
教育研究経費支出: 教育研究活動のた
めの支出で、光熱水費、施設設備の維
持・修繕含む。5 億 9,779 万円
管理経費支出: 管理運営、学生募集な
どのための支出。2 億 6,036 万円
施設関係支出: 建物等施設にかかる支
出 127 万円
設備関係支出: 機器備品や図書等支
出 1,445 万円
資産運用支出: 翌年度以降の各種引当
金(積立額 2 億 4,433 万円)

②資金収支計算書の経年比較

収入の部

(単位 円)

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金収入	1,719,895,000	1,780,160,000	1,659,350,000	1,491,080,000	1,395,310,000
手数料収入	18,570,928	16,666,600	15,067,030	14,202,210	8,406,280
寄付金収入	45,821,681	30,043,280	24,487,685	31,005,437	23,388,000
補助金収入	204,337,970	226,829,624	197,192,000	200,244,900	227,317,787
国庫補助金収入	201,840,800	225,558,200	197,192,000	200,130,400	226,594,900
地方公共団体補助金収入	2,497,170	1,271,424	0	114,500	722,887
資産売却収入	229,963	2	294,984,542	484,969	264,864
付随事業・収益事業収入	110,946,935	125,025,147	189,178,574	137,539,140	168,515,524
受取利息・配当金収入	1,329,037	2,568,428	6,650,477	6,348,218	6,345,200
雑収入	31,454,834	33,327,111	45,714,272	50,986,035	61,749,148
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	782,635,810	689,359,990	594,075,380	552,934,000	422,617,240
その他の収入	443,724,110	643,794,719	515,713,782	817,563,041	517,084,087
資金収入調整勘定	△ 858,168,171	△ 829,029,197	△ 743,235,860	△ 646,959,512	△ 613,770,854
前年度繰越支払資金	1,314,621,312	1,339,342,505	1,470,855,867	1,274,779,650	1,183,324,255
収入の部合計	3,815,399,409	4,058,088,209	4,270,033,749	3,930,208,088	3,400,551,531

支出の部

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費支出	968,857,274	1,001,983,263	1,015,066,878	1,045,155,647	1,054,991,758
教育研究経費支出	540,035,173	570,983,645	563,616,943	620,833,297	597,798,254
管理経費支出	240,274,862	243,752,935	248,265,139	270,647,594	260,366,727
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	50,261,484	47,860,187	59,078,829	159,936,828	1,277,875
設備関係支出	23,206,491	41,265,893	110,723,931	151,163,514	14,457,662
資産運用支出	351,838,000	376,120,000	746,380,712	220,209,000	244,334,000
その他の支出	352,990,880	372,825,984	341,008,827	361,612,434	378,387,848
〔予備費〕					
資金支出調整勘定	△ 51,407,260	△ 67,559,565	△ 88,887,160	△ 82,674,481	△ 113,319,669
翌年度繰越支払資金	1,339,342,505	1,470,855,867	1,274,779,650	1,183,324,255	962,257,076
支出の部合計	3,815,399,409	4,058,088,209	4,270,033,749	3,930,208,088	3,400,551,531

③活動区分資金収支計算書の状況

資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにする計算書です。

(単位 円)		
教育活動による資金収支	科 目	
	収入	金 額
	学生生徒等納付金収入	1,395,310,000
	手数料収入	8,406,280
	特別寄付金収入	23,388,000
	経常費等補助金収入	224,012,787
	付随事業収入	168,515,524
	雑収入	61,749,148
	教育活動資金収入計	1,881,381,739
	支出	金 額
	人件費支出	1,054,991,758
	教育研究経費支出	597,798,254
	管理経費支出	260,366,727
	教育活動資金支出計	1,913,156,739
	差引	△ 31,775,000
	調整勘定等	△ 113,213,270
	教育活動資金収支差額	△ 144,988,270
施設整備等活動による資金収支	科 目	
	収入	金 額
	施設設備補助金収入	3,305,000
	施設設備売却収入	264,864
	減価償却引当特定資産取崩収入	1,815,000
	施設設備維持引当特定資産取崩収入	35,122,000
	施設整備等活動資金収入計	40,506,864
	支出	金 額
	施設関係支出	1,277,875
	設備関係支出	14,457,662
	減価償却引当特定資産繰入支出	80,000,000
	施設設備維持引当特定資産繰入支出	113,864,000
	施設整備等活動資金支出計	209,599,537
	差引	△ 169,092,673
	調整勘定等	0
	施設整備等活動資金収支差額	△ 169,092,673
その他の活動による資金収支	科 目	
	収入	金 額
	奨学金引当特定資産取崩収入	9,850,000
	周年事業引当特定資産取崩収入	635,000
	教育研究充実引当特定資産取崩収入	126,681,000
	預り金受入収入	296,584,535
	立替金回収収入	24,420
	小計	433,774,955
	受取利息・配当金収入	6,345,200
	その他の活動資金収入計	440,120,155
	支出	金 額
	奨学金引当特定資産繰入支出	10,500,000
	教育研究充実引当特定資産繰入支出	4,570,000
	受託研究等引当特定資産繰入支出	35,400,000
	預り金支払支出	296,611,473
	立替金支払支出	24,918
	小計	347,106,391
	その他の活動資金支出計	347,106,391
	差引	93,013,764
	調整勘定等	0
	その他の活動資金収支差額	93,013,764
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 221,067,179
前年度繰越支払資金		1,183,324,255
翌年度繰越支払資金		962,257,076

教育活動による資金収支

本業である教育研究活動の収支状況

教育活動資金収支差額:

△1億4,498万円

(学納金、手数料、寄付金減等により)

施設整備等活動による資金収支

施設設備拡充にかかる収支状況

施設整備等活動資金収支差額:

△1億6,909万円

(翌年度以降の各種引当金繰入により)

その他の活動による資金収支

借入金や資金運用の状況等財務活動の収支状況

その他の活動資金収支差額:

9,301万円

(学科費用等のための特定資産取崩により)

支払資金: △2億2,106万円

(収入減及び引当金繰入により減)

④活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位 円)

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,131,027,348	2,212,051,762	2,130,989,561	1,918,730,722	1,881,381,739
教育活動資金支出計	1,749,167,309	1,816,719,843	1,826,948,960	1,936,636,538	1,913,156,739
差引	381,860,039	395,331,919	304,040,601	△ 17,905,816	△ 31,775,000
調整勘定等	△ 13,743,086	△ 98,974,876	△ 79,863,969	△ 57,808,889	△ 113,213,270
教育活動資金収支差額	368,116,953	296,357,043	224,176,632	△ 75,714,705	△ 144,988,270
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	20,906,710	285,934,002	175,004,542	320,148,969	40,506,864
施設整備等活動資金支出計	383,360,975	243,936,080	443,680,760	393,088,342	209,599,537
差引	△ 362,454,265	41,997,922	△ 268,676,218	△ 72,939,373	△ 169,092,673
調整勘定等	0	0	0	0	0
施設整備等活動資金収支差額	△ 362,454,265	41,997,922	△ 268,676,218	△ 72,939,373	△ 169,092,673
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	5,662,688	338,354,965	△ 44,499,586	△ 148,654,078	△ 314,080,943
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	342,594,533	333,904,976	602,391,222	468,758,779	440,120,155
その他の活動資金支出計	323,536,028	540,746,579	753,967,853	411,560,096	347,106,391
差引	19,058,505	△ 206,841,603	△ 151,576,631	57,198,683	93,013,764
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	19,058,505	△ 206,841,603	△ 151,576,631	57,198,683	93,013,764
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	24,721,193	131,513,362	△ 196,076,217	△ 91,455,395	△ 221,067,179
前年度繰越支払資金	1,314,621,312	1,339,342,505	1,470,855,867	1,274,779,650	1,183,324,255
翌年度繰越支払資金	1,339,342,505	1,470,855,867	1,274,779,650	1,183,324,255	962,257,076

(2) 事業活動収支計算書関係

当該会計年度の 3 つの活動(教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動)に対応する事業活動収支の内容を明らかにするとともに、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を明らかにします。

① 事業活動収支の状況

<総括表>

(単位 円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		学生生徒等納付金	1,388,845,000	1,395,310,000	△ 6,465,000	
		手数料	8,682,000	8,406,280	275,720	
		寄付金	23,430,000	23,546,400	△ 116,400	
		経常費等補助金	196,203,000	224,012,787	△ 27,809,787	
		国庫補助金	196,203,000	223,289,900	△ 27,086,900	
		地方公共団体補助金	0	722,887	△ 722,887	
		付随事業収入	169,094,000	168,515,524	578,476	
		雑収入	63,097,000	61,749,408	1,347,592	
		教育活動収入計	1,849,351,000	1,881,540,399	△ 32,189,399	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		人件費	1,088,879,000	1,059,993,228	28,885,772	
		教育研究経費	853,572,000	774,954,315	78,617,685	
管理経費		350,844,000	314,721,279	36,122,721		
徴収不能額等		10,000,000	877,878	9,122,122		
教育活動支出計		2,303,295,000	2,150,546,700	152,748,300		
教育活動収支差額			△ 453,944,000	△ 269,006,301	△ 184,937,699	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	6,345,000	6,345,200	△ 200	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	6,345,000	6,345,200	△ 200	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		借入金等利息	0	0	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	0	0	0	
		教育活動外収支差額			6,345,000	6,345,200
	経常収支差額			△ 447,599,000	△ 262,661,101	△ 184,937,899
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	5,900,000	6,144,031	△ 244,031	
		特別収入計	5,900,000	6,144,031	△ 244,031	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産処分差額	3,810,000	3,495,845	314,155	
		その他の特別支出	74,702,000	74,701,785	215	
		特別支出計	78,512,000	78,197,630	314,370	
		特別収支差額			△ 72,612,000	△ 72,053,599
	〔予備費〕			(0) 10,000,000		10,000,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 530,211,000	△ 334,714,700	△ 195,496,300	
基本金組入額合計			△ 31,000,000	△ 31,000,000	0	
当年度収支差額			△ 561,211,000	△ 365,714,700	△ 195,496,300	
前年度繰越収支差額			△ 7,250,037,000	△ 7,196,886,743	△ 53,150,257	
基本金取崩額			42,000,000	25,856,941	16,143,059	
翌年度繰越収支差額			△ 7,769,248,000	△ 7,536,744,502	△ 232,503,498	
(参考)						
事業活動収入計			1,861,596,000	1,894,029,630	△ 32,433,630	
事業活動支出計			2,391,807,000	2,228,744,330	163,062,670	

教育活動収支 △2 億 6,900 万円
教育の対価として受け入れる収入と教育にかかる経費や用役の対価
寄付金: 資金収支計算書の計上の他、消耗品等の現物寄付が含まれる。

人件費: 資金収支計算書の計上の他、当該会計年度の退職金相当額を引当てるため、退職給与引当金繰入額に計上(1,671 万円)

また、期末である 2026 年 3 月末に翌期の 6 月支給予定の賞与額を見積み、賞与引当金を計上する必要があるため、賞与引当金繰入額に計上(6,298 万円)

教育研究経費/管理経費: 資金収支計算書の計上の他、減価償却額(1 億 7,441 万円/5,179 万円)を含む。

徴収不能額等: 未収入金の回収不能額及び回収不能見込額の引当金

教育活動外収支 634 万円
経常的な財務活動(資金調達及び資金運用)及び収益事業にかかる収支

特別収支 △7,205 万円
一時的に発生した臨時的な収支
その他の特別収入: 機器備品、図書などの施設設備の売却額や現物寄付、補助金
資産処分差額: 施設設備の処分・除却

その他の特別支出: 2025 年 6 月の賞与支給額に相当する賞与引当金を計上する必要があるため、賞与引当金特別繰入額に計上(7,470 万円)

基本金組入前当年度収支差額 △3 億 3,471 万円
(学納金減や賞与引当金繰入などの支出増により前年度比減)

②事業活動収支計算書の経年比較

(単位 円)

		科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,719,895,000	1,780,160,000	1,659,350,000	1,491,080,000	1,395,310,000
		手数料	18,570,928	16,666,600	15,067,030	14,202,210	8,406,280
		寄付金	45,985,186	30,277,706	25,051,147	32,360,989	23,546,400
		経常費等補助金	204,337,970	226,829,624	197,192,000	196,617,900	224,012,787
		国庫補助金	201,840,800	225,558,200	197,192,000	196,503,400	223,289,900
		地方公共団体補助金	2,497,170	1,271,424	0	114,500	722,887
		付随事業収入	110,946,935	125,025,147	189,178,574	137,539,140	168,515,524
		雑収入	31,566,939	33,327,231	46,580,932	50,986,267	61,749,408
		教育活動収入計	2,131,302,958	2,212,286,308	2,132,419,683	1,922,786,506	1,881,540,399
	事業活動支出の部	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		人件費	981,245,484	1,012,052,249	1,022,824,352	1,051,784,855	1,059,993,228
		教育研究経費	755,569,315	785,436,403	706,124,933	782,637,892	774,954,315
		管理経費	287,119,528	293,483,063	295,905,215	322,692,366	314,721,279
		徴収不能額等	5,132,000	6,220,116	12,629,425	7,211,677	877,878
		教育活動支出計	2,029,066,327	2,097,191,831	2,037,483,925	2,164,326,790	2,150,546,700
		教育活動収支差額	102,236,631	115,094,477	94,935,758	△ 241,540,284	△ 269,006,301
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		受取利息・配当金	1,329,037	2,568,428	6,650,477	6,348,218	6,345,200
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	1,329,037	2,568,428	6,650,477	6,348,218	6,345,200
	事業活動支出の部	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
		教育活動外収支差額	1,329,037	2,568,428	6,650,477	6,348,218	6,345,200
		経常収支差額	103,565,668	117,662,905	101,586,235	△ 235,192,066	△ 262,661,101
特別収支	事業活動収入の部	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		資産売却差額	0	0	0	470,000	0
		その他の特別収入	4,185,411	2,697,426	2,558,451	7,815,744	6,144,031
		特別収入計	4,185,411	2,697,426	2,558,451	8,285,744	6,144,031
	事業活動支出の部	科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		資産処分差額	502,579	506,551	6,168,187	874,793	3,495,845
		その他の特別支出	0	0	20,000	0	74,701,785
		特別支出計	502,579	506,551	6,188,187	874,793	78,197,630
		特別収支差額	3,682,832	2,190,875	△ 3,629,736	7,410,951	△ 72,053,599
		[予備費]					
基本金組入前当年度収支差額			107,248,500	119,853,780	97,956,499	△ 227,781,115	△ 334,714,700
基本金組入額合計			△ 2,168,884	0	△ 15,595,704	0	△ 31,000,000
当年度収支差額			105,079,616	119,853,780	82,360,795	△ 227,781,115	△ 365,714,700
前年度繰越収支差額			△ 7,581,981,620	△ 7,476,902,004	△ 7,332,397,669	△ 7,250,036,874	△ 7,196,886,743
基本金取崩額			0	24,650,555	0	280,931,246	25,856,941
翌年度繰越収支差額			△ 7,476,902,004	△ 7,332,397,669	△ 7,250,036,874	△ 7,196,886,743	△ 7,536,744,502
(参考)							
事業活動収入計			2,136,817,406	2,217,552,162	2,141,628,611	1,937,420,468	1,894,029,630
事業活動支出計			2,029,568,906	2,097,698,382	2,043,672,112	2,165,201,583	2,228,744,330

(3) 貸借対照表関係

年度末の財政状態(資産、負債、正味財産(基本金、翌年度繰越収支差額等)の状態)を示すものです。

① 貸借対照表の状況

<総括表>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	7,060,102,401	7,202,940,807	△ 142,838,406
有形固定資産	5,236,154,612	5,446,204,786	△ 210,050,174
土地	1,858,780,918	1,858,780,918	0
建物	2,788,636,688	2,932,989,656	△ 144,352,968
その他の有形固定資産	588,737,006	654,434,212	△ 65,697,206
特定資産	1,319,216,000	1,248,985,000	70,231,000
その他の固定資産	504,731,789	507,751,021	△ 3,019,232
流動資産	1,040,429,743	1,253,752,612	△ 213,322,869
現金預金	962,257,076	1,183,324,255	△ 221,067,179
その他の流動資産	78,172,667	70,428,357	7,744,310
資産の部合計	8,100,532,144	8,456,693,419	△ 356,161,275
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	257,849,145	241,133,065	16,716,080
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	257,849,145	241,133,065	16,716,080
流動負債	601,857,383	640,020,038	△ 38,162,655
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	601,857,383	640,020,038	△ 38,162,655
負債の部合計	859,706,528	881,153,103	△ 21,446,575
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	14,777,570,118	14,772,427,059	5,143,059
第1号基本金	14,618,570,118	14,644,427,059	△ 25,856,941
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	159,000,000	128,000,000	31,000,000
繰越収支差額	△ 7,536,744,502	△ 7,196,886,743	△ 339,857,759
翌年度繰越収支差額	△ 7,536,744,502	△ 7,196,886,743	△ 339,857,759
純資産の部合計	7,240,825,616	7,575,540,316	△ 334,714,700
負債及び純資産の部合計	8,100,532,144	8,456,693,419	△ 356,161,275

有形固定資産:52 億 3,615 万円
前年度比減

特定資産:13 億 1,921 万円
将来の特定支出に備える資金の留保(減価償却引当、奨学金引当、施設設備維持引当、周年事業引当、教育研究充実引当、受託研究等引当)
前年度比増

その他の固定資産:(電話加入権、施設利用権、ソフトウェア、有価証券、差入保証金他):5 億 473 万円

現金預金:9 億 6,225 万円
現預金減

その他の流動資産:(未収入金、貯蔵品、前払金、立替金):7,817 万円
前年度比増

固定負債:退職給与引当金
2 億 5,784 万円 前年度比増

流動負債:(未払金、前受金、預り金、賞与引当金):6 億 185 万円 前年度比減

基本金:147 億 7,757 万円
学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額
第1号…有形固定資産の取得価額
第2号…将来取得予定固定資産の源資
第3号…奨学基金などの源資
第4号…恒常的に保持すべき資金

純資産の部合計(正味財産):
72 億 4,082 万円 前年度比減

②貸借対照表の経年比較

(単位 円)

科 目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	7,239,713,948	7,142,386,755	7,378,254,104	7,202,940,807	7,060,102,401
流動資産	1,399,523,934	1,544,213,384	1,340,974,315	1,253,752,612	1,040,429,743
資産の部合計	8,639,237,882	8,686,600,139	8,719,228,419	8,456,693,419	8,100,532,144
固定負債	216,677,397	226,746,383	234,503,857	241,133,065	257,849,145
流動負債	837,049,333	754,488,824	681,403,131	640,020,038	601,857,383
負債の部合計	1,053,726,730	981,235,207	915,906,988	881,153,103	859,706,528
基本金	15,062,413,156	15,037,762,601	15,053,358,305	14,772,427,059	14,777,570,118
繰越収支差額	△7,476,902,004	△7,332,397,669	△7,250,036,874	△7,196,886,743	△7,536,744,502
純資産の部合計	7,585,511,152	7,705,364,932	7,803,321,431	7,575,540,316	7,240,825,616
負債及び純資産の部合計	8,639,237,882	8,686,600,139	8,719,228,419	8,456,693,419	8,100,532,144

(4) 主な財務比率の経年比較

比 率	計算式	評価	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2024年度 大学法人平均
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	5.0%	5.4%	4.6%	-11.8%	-17.7%	3.3%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	～	95.1%	94.6%	96.1%	111.8%	119.6%	107.4%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	～	80.6%	80.4%	77.6%	77.3%	73.9%	72.0%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	46.0%	45.7%	47.8%	54.5%	56.1%	50.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	57.1%	56.9%	61.6%	70.5%	76.0%	70.7%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	35.4%	35.5%	33.0%	40.6%	41.0%	37.3%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	13.5%	13.3%	13.8%	16.7%	16.7%	8.9%
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	△	17.3%	13.4%	10.5%	-3.9%	-7.7%	11.4%
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	△	23.0%	26.1%	27.4%	24.2%	23.6%	28.5%
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	1.5年	1.5年	1.6年	1.3年	1.2年	2.0年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	167.2%	204.7%	196.8%	195.9%	172.9%	265.6%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	12.2%	11.3%	10.5%	10.4%	10.6%	11.6%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	171.1%	213.4%	214.6%	214.0%	227.7%	377.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.6%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	31.6%	33.2%	33.7%	31.0%	28.8%	74.9%

※日本私立学校振興・共済事業団では、一般的な財務比率の評価を次のとおりとしている。

△:高い値が良い、▼低い値が良い、～どちらともいえない

- ・事業活動収支差額比率は、2期連続してマイナス比率。
- ・人件費比率は、全国平均を下回り昨年度より悪化。
- ・教育研究経費比率は、全国平均を上回り昨年度より上がった。
- ・資産の蓄積を示す内部留保資産比率が下がり、積立率も悪化。

(5) その他

①有価証券の状況(時価のない債券2億含む)

(単位:円)

種類	貸借対照表計上額	時価※	差額
債 券	793,020,561	762,380,000	△30,640,561

②寄付金の状況

(単位:円)

区分	寄付者	金額
特別寄付金		23,388,000
奨学寄付金	企業 他	12,180,000
教育振興寄付金	保護者	1,260,000
クラウドファンディング	企業 他	4,072,000
研究奨励寄付金	企業 他	4,746,000
その他	その他	1,130,000
現物寄付(機器、図書等)	企業、教職員	2,997,431

③補助金の状況

(単位:円)

国庫補助金	金額
私立大学等経常費補助金	134,782,000
一般補助	112,066,000
特別補助	22,716,000
授業料等減免費交付金	88,507,900
私立大学等研究設備整備費補助金	3,305,000

地方公共団体補助金	金額
大学等連携事業交付金	722,887

(6)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

①経営状況の分析

日本私立学校振興共済・事業団の「定量的な経営判断に基づく経営状態の区分」によると、「イエローゾーン(B3)」にある。

②経営上の成果と課題

収入においては、学生生徒等納付金収入や寄付金収入などが減少となった。支出においては、施設・設備に係る支出が減少したことにより大幅な減少となった。

昨年度に引き続き次年度入学者数が大きく定員を割り込んでおり、収支状況の悪化の継続が見込まれる。全学的な入学定員充足に向けた施策の実行と外部資金の獲得が課題である。また、支出については、全体的な減額査定を実施したものの積立金の取崩に頼る状況となっている。

③今後の方針・対応方策

学生生徒等納付金収入の安定的確保のための施策と、学生数の減少に合わせた予算計画への移行を同時に行う必要がある。

学校法人ものづくり大学
ものづくり大学
ものづくり大学大学院

〒361-0038

埼玉県行田市前谷 333 番地

E-mail info@iot.ac.jp

URL <https://www.iot.ac.jp/>

経営企画本部	TEL 048-564-3822	FAX 048-564-3507
事務部		
総務課	TEL 048-564-3800	FAX 048-564-3507
企画広報課	TEL 048-564-3906	FAX 048-564-3201
学務部		
教務課	TEL 048-564-3200	FAX 048-564-3201
学生課	TEL 048-564-3817	FAX 048-564-3201
入試課	TEL 048-564-3816	FAX 048-564-3201
図書館・メディア情報センター	TEL 048-564-3821	FAX 048-564-3870
ものづくり研究情報センター	TEL 048-564-3880	FAX 048-564-3881
情報メカトロニクス学科	TEL 048-564-3826	FAX 048-564-3508
建設学科	TEL 048-564-3849	FAX 048-564-3509